

4 . 運用の試行・実証

(1) オフライン

(2) オンライン

4 . 運用の試行・実証

(1) オフライン

(2) オンライン

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン

ニーズ情報の収集・分析(例: インドの水の課題)

(2) オンライン

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例:インドの水の課題)

ニーズの情報収集についての検討

	今年度の検討内容	今年度の検討結果	次年度以降
Where	○ 対象国の選定 アジア数カ国(候補:インド、ベトナム、ネパール)やアフリカ数カ国(候補:ケニア、ルワンダ、ウガンダ、ガーナ、ナイジェリア、南アフリカ)	○ STI for SDGs ロードマップ作成のパイロット国で日本が支援を行うインドに決定	○ 数カ国~途上国 ○ (最終的にはほぼ全世界)
Who	○ 情報提供者の選定 JICA、JETRO、現地系商社等との協力が可能か	○ 関わり方によるため、ヒアリング等でJICA等に協力いただいた	○ 情報の具体的な連携を検討(JICA、JETRO、大使館、現地系商社等)
What	○ 分野の選定 特定の分野における現地政府、地方政府のニーズ(具体的な動き)について調査	○ 水分野に関連したインドにおけるSDGs達成状況や課題の検討を行った	○ 他の分野や国への拡大 ○ 現地企業のニーズ等の把握
How	○ オンラインとオフラインでの検討 ニーズを持っている機関にどのように関わってもらえるか検討	○ オフラインにおいて、関係者にステークホルダー会合やラウンドテーブル、課題別分科会、へ参加いただく	○ オンライン(HPでの入力)も実施できるか検討
今年度のニーズ収集	n 今年度はインドの水の課題に関して、SDGs達成状況や現地ニーズ情報の収集・分析を行った。 n それらの調結果を基に、課題別分科会を開催した。(次ページ参照)		

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例:インドの水の課題)

課題俯瞰図作成の流れとポイント

現地ニーズの把握のため、インドの社会課題を例に課題俯瞰図を作成した。
水資源、農業開発、資源エネルギーの3つの課題を課題構成ツリーで分析した。

STEP 1 作業前提の整理

- インドの社会課題の情報収集にあたり、日本政府、国際機関・ドナー、インド政府の文献を選定し、情報収集を実施(出典リストは別添資料を参照)。

グループ	機関名
日本政府	JICA
	外務省
インド政府	MoHUA
	NITI Aayog (政府系シンクタンク)
国際機関	国際連合食料農業機関(FAO)
	国連開発計画(UNDP)
	世界銀行
ドナー	Department for International Development (英国)
研究機関	Institute for Global Environmental Strategies

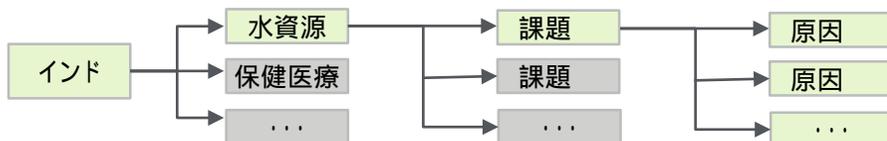
- 関連文献からインドの社会課題、課題の要因を抽出し、課題セクター別に整理。

STEP 2 課題セクターの選定

- JICAが定める開発途上国の課題の23分野の中から、本件と関連性の低い分野を排除し、21の課題セクターを選定。
- STIとの関連性や今回収集した課題情報の質を鑑みて、本ワークで活用する3つのセクターを選択。

STEP 3 課題構成ツリーの作成

- 課題と原因を課題構成ツリーの落とし込み、複合的なインドの社会課題を整理。



課題セクター

#	JICA課題区分け	今回のワークで使用
1	教育	
2	保健医療	
3	水資源	
4	ガバナンス	
5	平和構築	
6	社会保障	
7	運輸交通	
8	情報通信技術	
9	資源・エネルギー	
10	経済政策	
11	民間セクター開発	
12	農業開発/農村開発	
13	自然環境保全	●
14	水産	
15	ジェンダーと開発	
16	都市開発・地域開発	
17	貧困削減	
18	環境管理	●
19	南南・三角協力	
20	気候変動対策	
21	防災	
22	栄養改善	
23	スポーツと開発	



本ワークでは、STI for SDGsとの関連性や情報収集の結果導き出されたインド政府の重点分野に焦点を当てる

自然環境保全と 環境管理を

「自然環境」として統合

出所: JICAホームページ

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例: インドの水の課題)

課題セクターとSDGsの関連性

前頁に示した21の各課題セクターは、それぞれ12のSDGsゴールの複数と結びついている。

#	JICA課題区分け	1 貧困をなくそう	2 質の高い雇用を創出	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等をすすめる	6 清潔な水とトイレを世界中に	7 再生可能エネルギーを普及させる	8 豊かになる経済を創出	9 産業と雇用革新を加速させる	10 人や国ごとの格差をなくす	11 持続可能な都市とコミュニティを創出	12 つくばない消費を推進	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正な社会を実現	17 パートナーシップで目標を達成しよう
1	教育	✓			✓				✓									
2	保健医療			✓														
3	水資源						✓											
4	ガバナンス																✓	
5	平和構築																✓	
6	社会保障	✓		✓						✓								
7	運輸交通			✓					✓		✓							
8	情報通信技術				✓			✓	✓									
9	資源・エネルギー							✓						✓				
10	経済政策								✓								✓	✓
11	民間セクター開発								✓	✓								✓
12	農業開発/農村開発	✓	✓											✓				
13	自然環境保全													✓	✓	✓		
14	水産	✓	✓												✓			
15	ジェンダーと開発					✓												
16	都市開発・地域開発								✓		✓							✓
17	貧困削減	✓				✓												✓
18	環境管理							✓			✓	✓						
20	気候変動対策													✓				
21	防災	✓									✓			✓				
22	栄養改善		✓	✓			✓											

自然環境保全と 環境管理を「自然環境」として統合
 南南・三角協力と⑳スポーツと開発はSTIとの関連性の低さから除外

出所: JICAホームページ

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例:インドの水の課題)

インドのSDGsの取り組み状況

インドのSDGs指数ランキングは162か国中115位であり、9つのSDGsゴールでの進捗状況が深刻であるため、対応が求められていることが明らかになった。

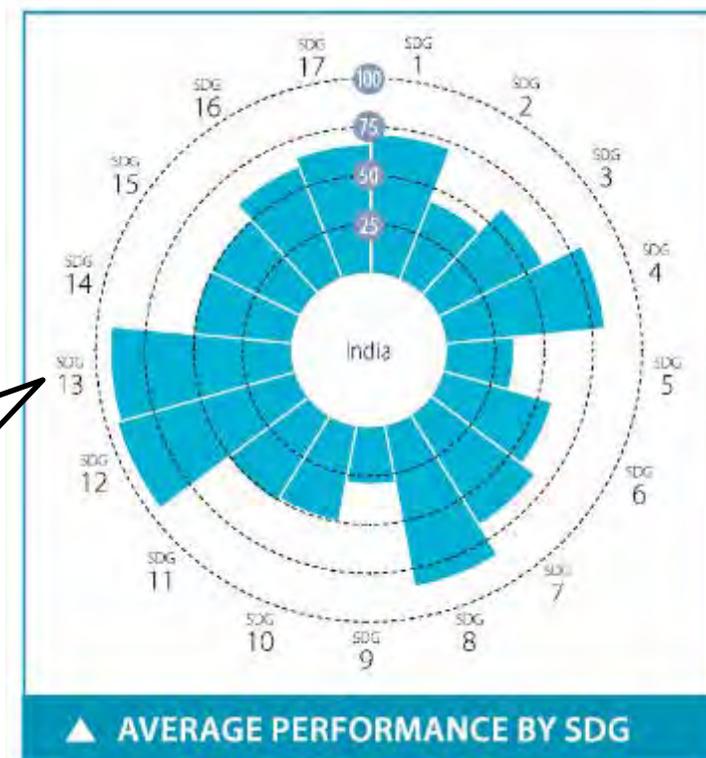
進捗状況

- n 各国の経済・社会状況を勘案すると、G20の中でもインドがとりわけ重要な役割を担っている。インドは13億人を上回る人口を抱え、早晩中国を追い抜き世界第一位の人口大国になる見通しである。その一方、経済面では、一人当たり名目GDPが約2,000ドルとG20の中で最も低く、貧困解消やインフラ整備など多くの課題を抱えている。
- n 「SDGs指数」でインドのSDGsの達成状況をみると、「イノベーション」と「ジェンダー」の分野のスコアがとりわけ低いインデックススコアは61.1であり、東及びアジアの平均スコアの65.1ポイントを下回る
- n SDGグローバルランクは115位(162か国中)

インドが取り組むべき重点分野



インドにおける各SDGsゴールの進捗図



出典:ベルテルスマン財団
Sustainable Development Report 2019

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例: インドの水の課題)

インドにおける持続可能な開発目標に向けた日印協力行動に関するプログラム

インド政府はSDGsに向けた日印協力行動に関するプログラムを締結し、円借款額150億円で取り組んでいる。

背景

- n インド政府は、2017年7月に国連で行われた「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム」において、同年のフォーラムのテーマとなった各ゴールに関し、達成に向けた計画を発表するVoluntary National Review国となる等、SDGs達成に向け積極的に取り組んでいる。
- n NITI AayogはSDGs達成に向けて進捗が遅れている地域を対象に目標との乖離が特に大きい分野(保健・栄養、教育、農業・水資源、金融包摂性・技能研修、基礎インフラ)での達成状況を毎月モニタリングし全土でのSDGs達成に向けて取り組んでいる。
- n 世界銀行は、対インド支援枠の2018年～2022年版において、「資源効率的な成長、競争力の強化、人的資源への投資」を重点分野として掲げ、SDGsにおいてインドが遅れている保健や教育等のテーマに対する支援を展開している。またアジア開発銀行は、支援戦略2018年～2022年版において、インドのSDGs達成のため「経済競争力の強化、包括的なインフラネットワーク・サービス、気候変動対策」への支援を三つの柱として掲げている。

目的

- n インドにおけるSDGsに関する各種政策の枠組みや実施体制の強化支援を行うことで、同国の社会開発分野におけるSDGsの推進を図り、もって2030年のSDGs達成に貢献するものである。

内容

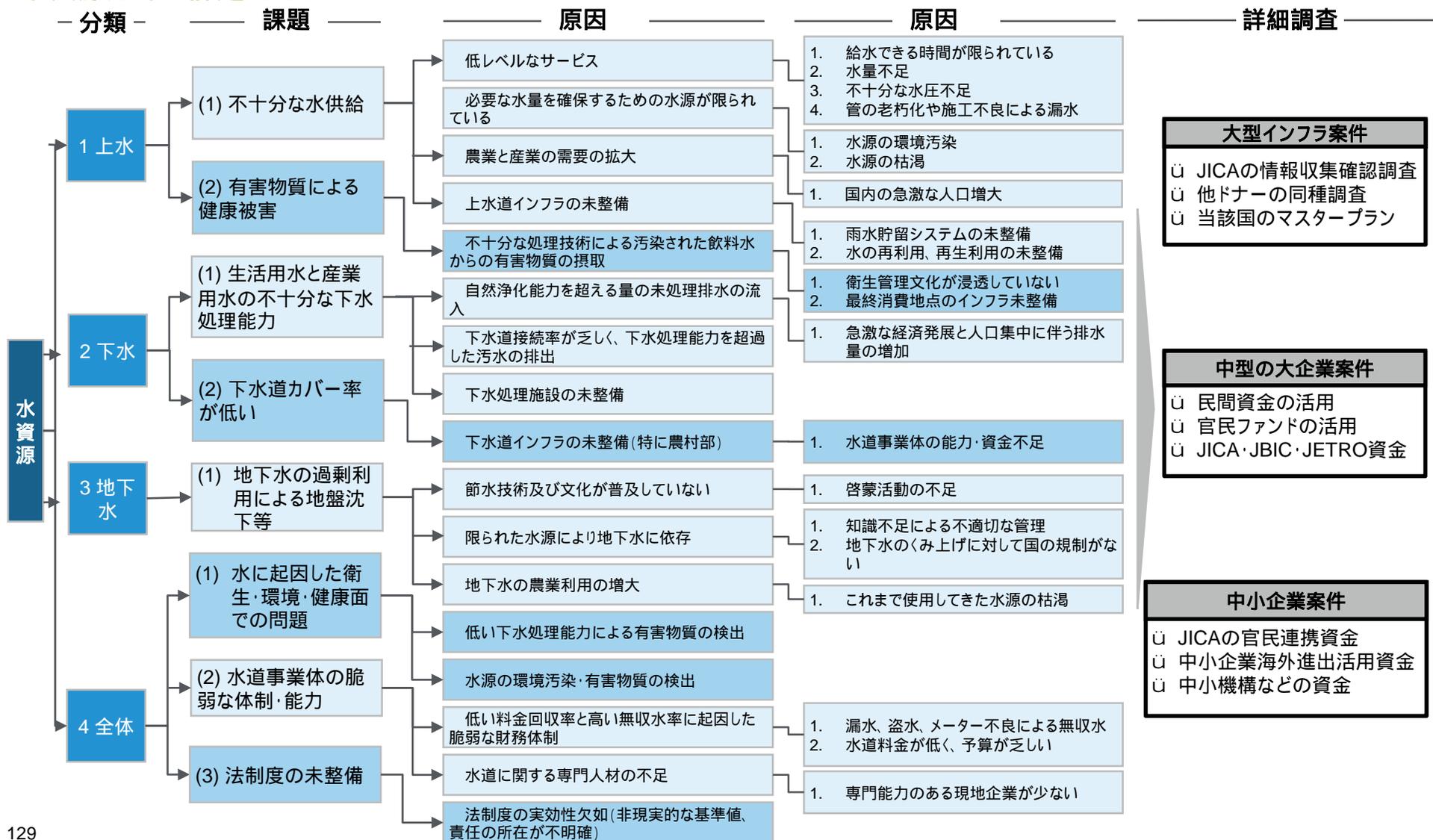
- n NITI Aayogとの協議に基づき、先方が重視する5分野を政策マトリクスの柱とし政策アクションを設定する。代表的な達成目標と政策アクションの一例は以下のとおり。

取組課題	達成目標(2030年)
	本プログラム期間中 (2017/18年度～2019/20年度)の主な政策アクション
本事業全般、及びグローバル・パートナーシップの活性化	<ul style="list-style-type: none"> • インド中央政府のSDGs達成状況をモニタリングする仕組みを構築する • インド中央政府が、全土において地域毎にSDGs関連指標の達成状況を確認し、達成度が低い地域の分析を実施する
保健・栄養	<ul style="list-style-type: none"> • 全ての妊婦を対象に医療ケアを提供する • 乳児に対し必要な予防接種を全て実施する • 妊婦・乳児ケア施設拡充及び予防接種の啓発活動を実施するための協力プラットフォームを設置する
教育	<ul style="list-style-type: none"> • 初等教育3年生の数学における学習成果をあげる • 中等教育を提供する全ての学校に電気を供給する • 学習効果発現に向けた課題を分析する調査を立ち上げ、結果を反映し学習成果を向上させる
農業・水資源	<ul style="list-style-type: none"> • 高付加価値作物の作付け面積拡大のための特別ミッションを立ち上げる • 指標達成のための好事例を抽出し、全国で共有する
金融包摂性・技能研修	<ul style="list-style-type: none"> • 人口あたりの銀行口座開設数を増加する • 技能研修を受講した若年層の雇用率を向上させる • 銀行口座開設数増加のための担当窓口を各県に設置する • 技能研修を受講した若年層の雇用状況を追跡する仕組みを導入する
基礎インフラ	<ul style="list-style-type: none"> • インターネットの接続可能地域を拡大させる • 地方部において、十分な量の飲料水を供給する • インターネット不通村を特定し、各村一ヶ所以上の行政機関の建物等でwi-fiを提供する • 飲料用水供給を加速するため、コミュニティの参加の仕組みを導入する

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例:インドの水の課題)

水資源分野の課題俯瞰図



4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例: インドの水の課題)

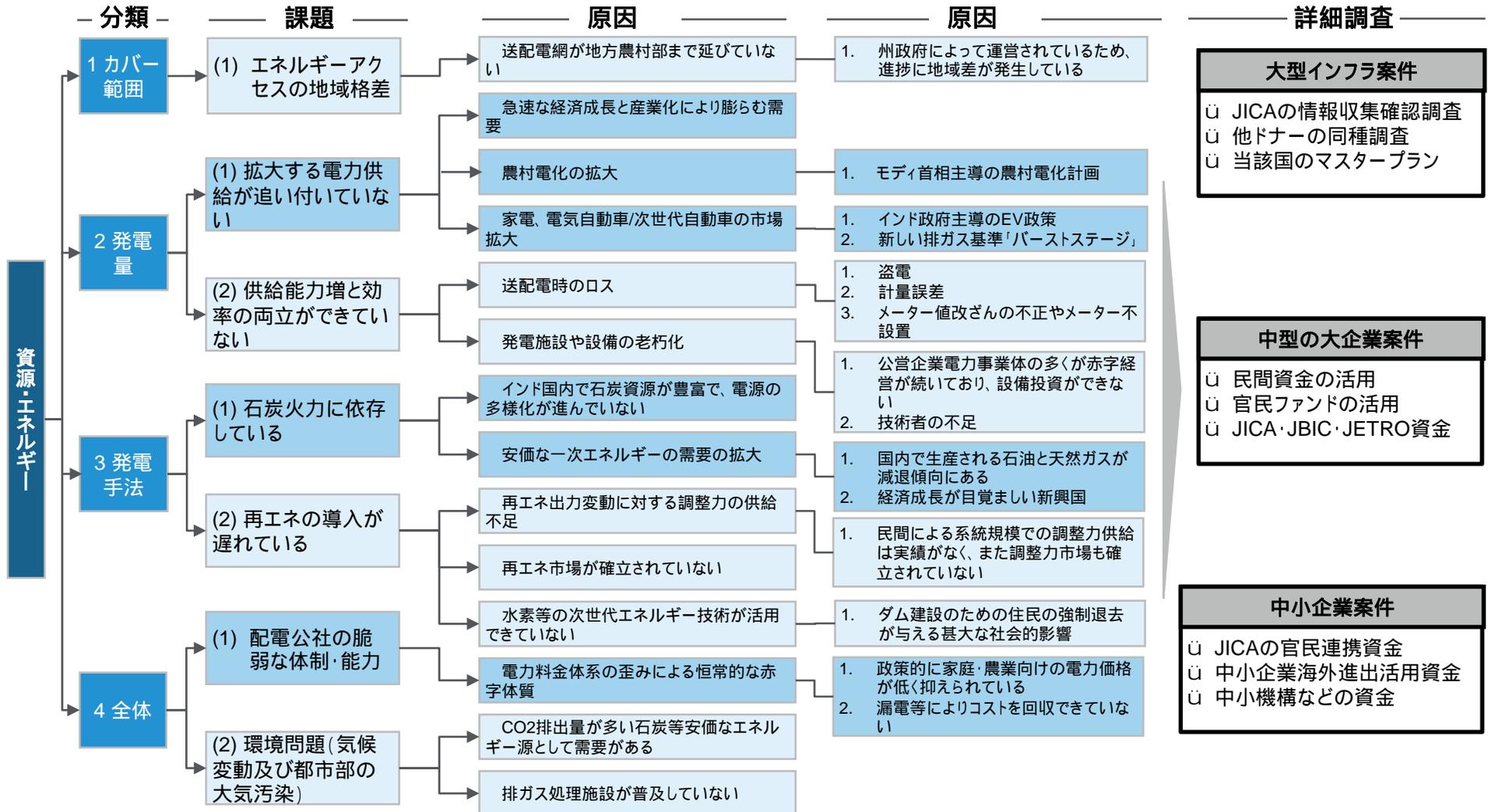
農業開発・農村開発分野の課題俯瞰図



4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例:インドの水の課題)

資源・エネルギーの課題俯瞰図



4. 運用の試行・実証

(1) オフライン ニーズ情報の収集・分析(例: インドの水の課題)

インド研究専門家によるコメント

インドの課題やニーズの深堀にあたり、国際基督教大学の近藤正規上級准教授よりインドの現状についてコメントをいただき、業務の参考にした。

インドの重点課題

- 過去45年で最も高いと言われる**失業問題**
- デリーを中心とした**大気汚染**
- 電力供給の発電キャパシティは追いついてきましたが、ただし**送配電**が課題である。**再生可能エネルギー**は他国より発展している
- インド政府の保健支出のGDPに占める比率はサブサハラアフリカの平均より低く世界最低水準である
- マクロ経済の四半期成長率が2013年1-3月以来の最低水準に落ち込み、失業率も高く、景気対策がまず必要で、しばらくは**教育や保健**に手が回らない
- ビハール州やジャルカンド州、MP州、チャッティスガル州、ラジャスタン州、北東部は人的開発が遅れている

主要プレイヤー

- インドの役所は日本と違い非常に多いため、**多くの機関**にアプローチする必要がある
- **アジア開発銀行**もインドの調査や支援を多岐に渡り実施している
- 保健分野では、米国**USAID**の支援規模が大きい
- 民間の**ゲイツ財団**も存在感のある支援を展開している

日本のこれまでの支援

- **地下鉄や新幹線**のような大型案件や**上下水道案件**が中心
- **植林案件**も多数存在する
- **農業、初等教育、保健分野**では良質な案件が不足している
- インド政府への知の移転が進んでおらず、JICAにノウハウが集中している。外務省とJETRO以外の省庁にインド専門家がいないのも課題である
- 民間企業はインドビジネスが困難であるため、**SDGsに関連したビジネスはほとんどない**。スズキやホンダやダイキンが職業訓練学校を作ったのはその中でも例外である
- JICAが支援したインド工科大学院ハイデラバード校はハコモノの提供のみであり、先生が不足している。当初の計画と違い、日本企業に就職する学生も少ない
- 民間企業は半分が自動車関連であるにも関わらず、インド政府は電気自動車を推しているのに対しハイブリッドを日本は推進している

今後の支援の在り方について

- **課題分析だけでなく、日本の官民の役割を再検討し、日本の強みを発揮する必要がある**
- SDGs達成自体を「直接」目的とするのではないが、「結果的に」SDGs達成に貢献する企業が増えている
 - 日本製鉄(旧新日鉄住金)が現地の破綻した製鉄会社を別の地場企業とともに買収し、クリーンテクノロジーを導入した事例
 - 日本生命や三井住友生命などの保険会社が現地企業に出資して保険事業を拡大した事例
 - ソフトバンクが社会課題解決型のスタートアップに出資した事例

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン

リアルイベントの開催

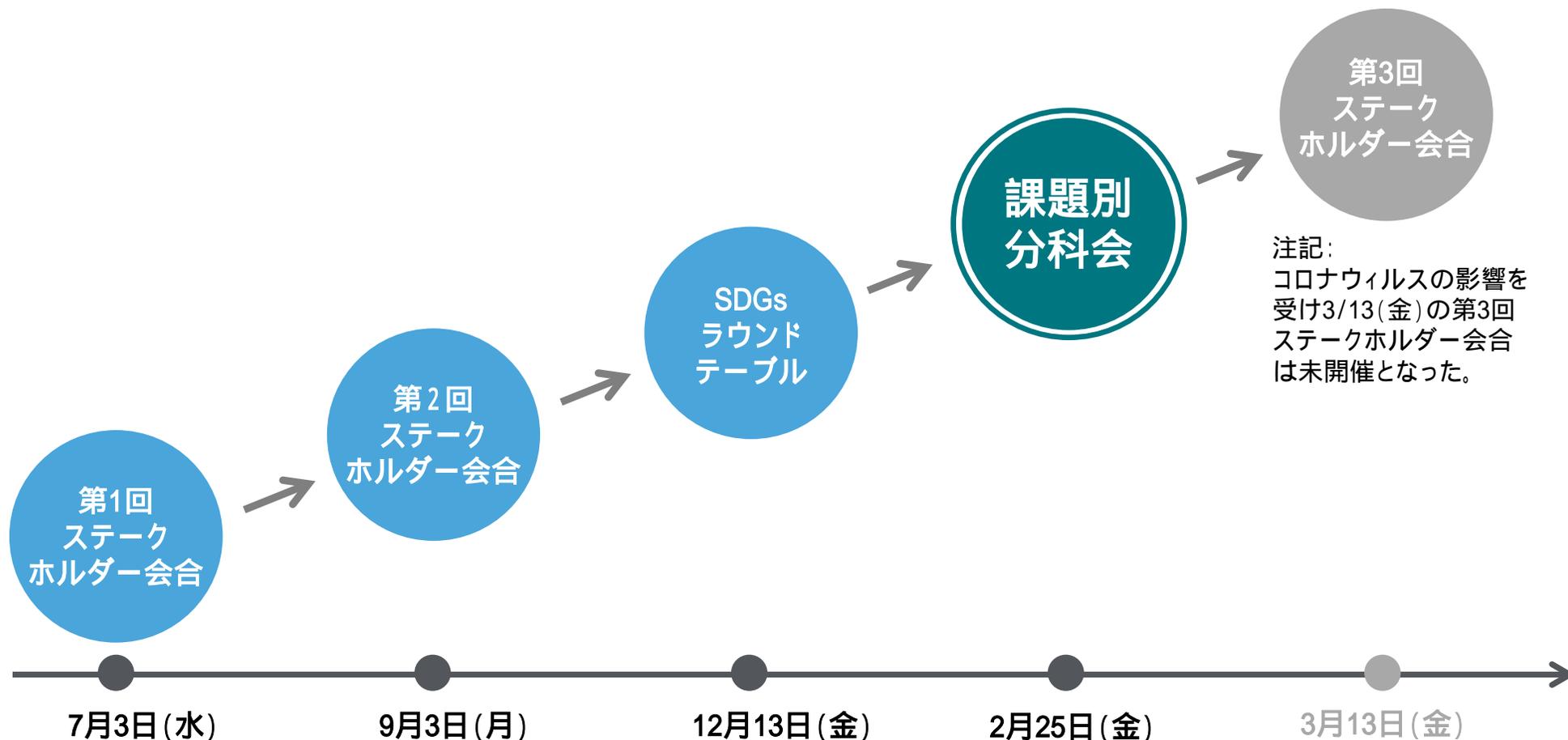
(2) オンライン

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

リアルイベントの開催

プラットフォームの事務局の方で整理した現地情報をデマンドサイド・有識者からの見解を交えて精査だけでなく、ビジネス視点で課題情報を捉える場の設定のため、本業務で5つのリアルイベントを開催した。



4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

ステークホルダー会合とリアルイベントの概要

ステークホルダー会合では、プラットフォーム全体像や運営方法について産官学からのステークホルダーと議論した。ラウンドテーブル及び課題別分科会では、特定地域における課題構造の深堀と事業機会の特定を中心に有識者と議論を展開した。

	第1回 ステークホルダー会合	第2回 ステークホルダー会合	ラウンドテーブル	課題別分科会	第3回 ステークホルダー会合
開催時期	2019年7月3日(水)	2019年9月30日(月)	2019年12月13日(金)	2020年2月25日(火)	2020年3月13日(金)
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの全体像について(プラットフォームの機能要件の整理と事業化支援プロセスの確立に向けた議論) 既存のプラットフォームの概要及び分析比較結果の報告 プラットフォームとして備えるべき機能要件 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ情報の収集・シーズ情報の掘起し方法に関する議論 事業化支援機能としてのマッチング方法に関する議論 他機関との情報連携について 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム構築・進め方イメージについて 特定地域における課題構造の把握方法及びビジネス機会の特定方法について 	<ul style="list-style-type: none"> インドにおける社会課題に対するソリューションの特定 	<ul style="list-style-type: none"> あり方検討結果による考察・課題点の共有 次年度のプラットフォーム運営に向けた取組フロー案について
議論を踏まえた論点	<ul style="list-style-type: none"> 参加者から開発途上国ニーズの収集の困難さ、情報提供者の信用度、情報リテラシーの検討について意見をいただく。 事業創造については、マッチングありきのプラットフォームでなく、事業実施主体者へのインセンティブを示す必要があることを気づきとして得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズの掘起をして、それにシーズを繋げるという話以前に、現地側にニーズ(ビジネス需要)を認識させること。 マッチングありきでなく、ステークホルダーを巻き込んだ運用が肝要。 ニーズから事業化させるにはオーナーシップが重要(現地側の窓口)。 	<ul style="list-style-type: none"> STIの定義やプラットフォームでのカバー範囲を定義すべき。 このプラットフォームで提供・発信できる情報を精査すべき。 日本企業に課題俯瞰図を見せても事業化されなのでは、現地とのやり取りに活用する方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 分科会は、次年度以降プラットフォームを構築・運営するうえでの試行的取組みに位置付けた。 現地側のカウンターパート像を持って、民間企業がビジネス視点で現地情報を捉えることができるか検証した。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題別分科会の実施までの検討結果を踏まえて、次年度のプラットフォーム構築・運営に向けた取組の流れを告知する。 <p>注記: コロナウィルスの影響を受け3/13(金)の第3回ステークホルダー会合は未開催となった。</p>

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

STI for SDGsラウンドテーブルの開催概要

STI for SDGsラウンドテーブルでは、プラットフォームの進め方と特定地域における課題構造の把握方法について有識者と議論した。

STI for SDGsラウンドテーブル

開催日時	n 2019年12月13日(金)13時30分～15時30分	
開催場所	n 会場:東京シティラボ 会議室(東京都中央区京橋3丁目1-1 東京スクエアガーデン6階)	
開催趣旨	n 第1～2回ステークホルダー会合を振り返り、議論内容に対しての参加者のとの意見交換をした。 n プラットフォーム構築・進め方イメージ・特定地域における課題構造の把握方法およびビジネス機会の特定方法について議論した。	
プログラム	項目	内容
	1. プラットフォーム構築に当たっての趣旨説明	∅ これまでの議論のベースにあったオンラインマッチングありきのスキームではなく、全体を俯瞰して今後優先度の高い課題を分析し、ビジネス機会の創出に向けた議論をする受け皿に位置付けていきたい旨を説明した。
	2. プラットフォーム構築・進め方イメージについて	∅ 前段のプラットフォームの位置付けに基づき、次年度までを見据えた今後の運営フローについてご説明した。
	3. 特定地域における課題構造の把握およびビジネス機会の特定方法について	∅ ビジネス機会をマルチステークホルダーで捉えるために、議論のたたき台として課題俯瞰図を作成した。

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

STI for SDGsラウンドテーブルの参加者一覧

STIに関する専門的見地からの助言に加え、わが国におけるSTIシーズとニーズのマッチングを図るべく様々な立場の有識者が参加した。順不同

団体名	役職	氏名(敬称略)	備考
慶應義塾大学大学院	教授	蟹江 憲史	SDGs専門家
双日株式会社	法務部 部長補佐	Ohri Gopal	インド専門人材
豊田通商株式会社	渉外広報部 海外渉外室長	羽田 裕	アフリカビジネス協議会ファシリテーター
ヤマハ発動機株式会社	海外市場開拓事業部 主査	辰巳 宗康	浄水機器の市場開拓
	海外市場開拓事業部 主査	森 健二	インド駐在経験
一般社団法人 Japan Innovation Network (JIN)	代表理事	西口 尚宏	イノベーション経営推進 SHIPの運営
国際協力機構(JICA)	社会基盤・平和構築部 次長	荒 仁	STI 担当
MAI INTERNATIONAL ASSOCIATES JOINT STOCK COMPANY	代表	梅田 伸之	東南アジアへのビジネス展開支援
国際連合工業開発機関 (UNIDO)	所長	安永 裕幸	STePPの運営

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

STI for SDGsラウンドテーブルの議論結果

ラウンドテーブルの参加者から、プラットフォームで扱う課題の情報粒度や運営方法についてご意見をいただいた。

有識者からのご意見	意見を受けた事務局の検討内容
<p>STIの定義やプラットフォームでのカバー範囲について</p> <ul style="list-style-type: none">○ STIの定義や認識のすり合わせが必要。(羽田氏、荒氏)○ 学术界の巻き込みが必要。(蟹江氏)○ 海外課題を解決するSTIの良い事例はSATREPS。(安永氏、西口氏)	<ul style="list-style-type: none">n 学术界をどこまで巻き込むのか。n 既存のSATREPSの事業化支援の方が良いのか。
<p>このプラットフォームで創出したい事業化の形態</p> <ul style="list-style-type: none">○ 鍬の例のような現地側(どこと組むかは重要)と協力した製品・技術開発が学术界も巻き込んでこのプラットフォームでできると良い。(西口氏、羽田氏)	<ul style="list-style-type: none">n まずグッドプラクティスの共通認識の確認やプラットフォームでやる範囲の特定しつつ進めるのはどうか。
<p>プラットフォームで提供する情報</p> <ul style="list-style-type: none">○ 民間企業が必要としている情報とは何か。(荒氏)例:事前調査に関することがプラットフォーム提供されると良い。(辰巳氏)	<ul style="list-style-type: none">n まずできること(現地課題情報等)の公開から始め、今後できることを特定し拡大させるのはどうか。
<p>課題俯瞰図の活用</p> <ul style="list-style-type: none">○ 日本企業に課題俯瞰図を見せても事業化はされないだろう。現地とのやり取りに活用する方が良い。(羽田氏)○ 課題の俯瞰よりも、特定課題と自社事業の親和性について知りたい。(辰巳氏)	<ul style="list-style-type: none">n 海外へのステークホルダーに聞く際の資料として用いるか。
<p>プラットフォームでどこまで課題の詳細化を行うか。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 課金ニーズがある事業の特定が必要。(西口氏)	<ul style="list-style-type: none">n 課題俯瞰図とともにプラットフォームの役割を検討する。

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

STI for SDGsラウンドテーブルの様子



4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

課題別分科会の開催概要

課題別分科会では、ニーズ発意型、シーズ発意型、地域連携型の3つの型による事業化におけるつまずきや成功要件について議論した。

課題別分科会											
開催日時	n 2020年2月25日(水) 13時30分～16時00分										
開催場所	n 中央合同庁舎8号館416会議室(東京都千代田区永田町1丁目6-1)										
開催趣旨	n 事業化におけるニーズ発意型、シーズ発意型、地域連携型つまずきについて議論することで、オフラインにて事務局側がすべき支援内容やPF機能について気づきを得る。										
プログラム	<table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. インドが抱える社会課題整理について ディスカッション</td><td>○ 事務局より、STI for SDGsのロードマップを作成する際のパイロット国であるインドが抱える社会課題について説明した。</td></tr><tr><td>2. 現地課題に関するニーズ側の発表 ディスカッション</td><td>○ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより、インドにおける安全な水・飲料水の確保に関するニーズ側の発表をいただき、事業化における課題について議論した。</td></tr><tr><td>3. 現地課題に関するシーズ側の発表 ディスカッション</td><td>○ ヤマハ発動機より、インドにおける安全な水・飲料水の確保に関するシーズ側の発表をいただき、事業化における課題について議論した。</td></tr><tr><td>4. 自治体の現地課題(大気汚染)解決に向けた取り組みの発表</td><td>○ 福岡県より、インドにおける現地課題(大気汚染)解決に向けた取り組みの発表をいただき、事業化における課題について議論した。</td></tr></tbody></table>	項目	内容	1. インドが抱える社会課題整理について ディスカッション	○ 事務局より、STI for SDGsのロードマップを作成する際のパイロット国であるインドが抱える社会課題について説明した。	2. 現地課題に関するニーズ側の発表 ディスカッション	○ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより、インドにおける安全な水・飲料水の確保に関するニーズ側の発表をいただき、事業化における課題について議論した。	3. 現地課題に関するシーズ側の発表 ディスカッション	○ ヤマハ発動機より、インドにおける安全な水・飲料水の確保に関するシーズ側の発表をいただき、事業化における課題について議論した。	4. 自治体の現地課題(大気汚染)解決に向けた取り組みの発表	○ 福岡県より、インドにおける現地課題(大気汚染)解決に向けた取り組みの発表をいただき、事業化における課題について議論した。
	項目	内容									
	1. インドが抱える社会課題整理について ディスカッション	○ 事務局より、STI for SDGsのロードマップを作成する際のパイロット国であるインドが抱える社会課題について説明した。									
	2. 現地課題に関するニーズ側の発表 ディスカッション	○ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより、インドにおける安全な水・飲料水の確保に関するニーズ側の発表をいただき、事業化における課題について議論した。									
	3. 現地課題に関するシーズ側の発表 ディスカッション	○ ヤマハ発動機より、インドにおける安全な水・飲料水の確保に関するシーズ側の発表をいただき、事業化における課題について議論した。									
4. 自治体の現地課題(大気汚染)解決に向けた取り組みの発表	○ 福岡県より、インドにおける現地課題(大気汚染)解決に向けた取り組みの発表をいただき、事業化における課題について議論した。										

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

課題別分科会で取り扱うテーマの選定について

課題別分科会で取り扱うテーマの選定にあたり、課題セクターが明確でかつ、既に関係者との関係構築ができているテーマから選択した。

	対象地域	課題セクター	現地 カウンターパート	日本側企業	事前 現地調査	備考
テーマ	インド (デリー準州)	大気汚染	ü 自治体	ü 福岡県企業	済	ü 福岡県事業として弊社が事前調査を実施
テーマ	インド (UP州;ウツタル・プラ デシュ州)	都市の近代化(農 業開発、スマート シティ)	ü UP州 ü デルタ社	未定		ü UP州の首相や幹部クラスの官僚を日本に招聘することができるとの申し入れあり ü 公的なインビテ発行については要確認
テーマ	インド (地域未定)	水処理・水資源	未定	ü ヤマハ発動機、他 (大企業)	済	ü ヤマハ発動機は現地での事前調査済
テーマ	インド (マハラシュトラ州)	農業	ü マハラシュトラ州 ü 水道局	ü 茨城製作所、他 (中小企業)	済	ü IoT機器が付いた小水力発電機による灌漑用水の管理。事前調査済。 
テーマ	インド (地域未定)	ヘルスケア	未定	TBA (大学発ベンチャー)		ü 感染症の簡易検査キットで東南アジアで展開済。インドで検討中。 
テーマ	ケニア (地域未定)	水処理・水資源	未定	ü 三菱ケミカルアク アソリューション		ü 「地下水膜ろ過システム」をケニアで展開検討中。内閣官房の「アフリカ健康構想」業務で弊社と関係あり

課題別分科会の候補案

- 既に現地カウンターパートの想定ができており、議論の深化における当事者になり得る日本企業も確定している(テーマ , テーマ)
- 大企業でインパクトが高く、現地での事前調査も完了している(テーマ)

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

課題別分科会の参加者一覧

インドの水問題に精通した専門家に加え、インドにて事業化に向けた課題を抱える当事者等が参加した。

順不同

団体名	役職	氏名(敬称略)	備考
(公財)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	事務局次長 兼 法人連携部長	兵頭 康二	デマンド側の発表
	ファンドレイジング部 法人連携チーム	吉田 克弥	デマンド側の発表
ヤマハ発動機株式会社	海外市場開拓事業部クリーンウォータープロジェクトグループ グループリーダー	下石 京子	サプライサイド側の発表
	海外市場開拓事業部企画推進部クリーンウォータープロジェクトグループ 主務	森 建二	当該技術に関する専門家
福岡県	環境部環境政策課 企画主幹	杉 功一	地域での取組の発表
	環境部環境政策課 主任主事	松井 真由美	地域での取組の発表
	環境科学部大気課 専門研究員	山本 重一	オブザーバー
双日株式会社	法務部 部長補佐	Ohri Gopal	インド専門人材
豊田通商株式会社	渉外広報部 海外渉外室長	羽田 裕	アフリカビジネス協議会 ファシリテーター
Global Water Japan	代表	吉村 和就	上下水や水ビジネスの専門家
	広報部長	秋山 礼子	オブザーバー

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

課題別分科会の参加者一覧

インドの水問題に精通した専門家に加え、インドにて事業化に向けた課題を抱える当事者等が参加した。

順不同

団体名	役職	氏名(敬称略)	備考
(一社) Japan Innovation Network	代表理事	西口 尚宏	イノベーション経営推進、SHIPの運営
	ディレクター	小原 愛	イノベーション経営推進、SHIPの運営
株式会社東京大学 TLO	代表取締役社長	山本 貴史	技術の実用化の橋渡し
国際連合工業開発機関 (UNIDO)	所長	安永 裕幸	STePPの運営
	プログラム・アシスタント	後藤 仁彦	STePPの運営
国際協力機構 (JICA)	南アジア部 南アジア一課 職員	松野 一晴	南アジアの専門家
	南アジア部 南アジア一課 専門嘱託	高橋 美里	南アジアの専門家
在日インド大使館	Counsellor (S&T)	Dr. Usha Dixit	科学技術分野の担当者
PwCコンサルティング合同会社	シニアアソシエイト	篠崎 亮	事業支援担当者

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

課題別分科会の進行プログラム

ニーズ発意型、シーズ発意型、地域連携型の3つの型による現地での取組みを発表し、課題及びアプローチについて議論した。

時間		項目	内容	説明者
13:30 ~ 13:35	5min	オープニング	<ul style="list-style-type: none"> 課題別分科会実施の趣旨説明 	内閣府・トーマツ
13:35 ~ 13:40	5min	インドが抱える社会課題整理について	<ul style="list-style-type: none"> 社会課題を構造化して分析し、その結果から今回のテーマ選定を行った旨を説明 	トーマツ
13:40 ~ 14:40	60min	現地課題(安全な水・飲料水の確保)に関する ニーズ側の発表	<ul style="list-style-type: none"> 現地課題とその背景 課題解決に向けた取組み 想定されるソリューションについて 	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
		参加者のディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> 課題についての質疑応答 現状の課題に対する解決に向けた新たなアプローチ方法 	トーマツ (意見交換)
14:40 ~ 15:05	25min	現地課題(安全な水・飲料水の確保)に関する シーズ側の発表	<ul style="list-style-type: none"> シーズ(機器)の紹介 これまでの取組とその過程で困っていること 	ヤマハ発動機
		参加者のディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの付加価値の付け方 現地での導入の可能性 	トーマツ (意見交換)
15:05 ~ 15:30	25min	自治体の現地課題(大気汚染)解決に向けた 取り組みの発表	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経緯 現地調査報告 	福岡県
		参加者のディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> 質疑応答 	トーマツ (意見交換)
		クロージング・事務連絡	<ul style="list-style-type: none"> 第3回ステークホルダー会合の案内 	内閣府・トーマツ

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

ニーズ発意型の発表

ニーズ発意型ビジネスの検討では、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンよりインドでの水衛生課題に関する取り組みと民間企業と連携したソリューションの展開について発表いただき、今後のさらなる展開方法についてディスカッションをした。

n セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの特徴

- インドの現場でのSDGsに関連した活動経験が豊富
- 今回テーマとする上下水に関する取組みも実施
- これまでも、課題解決に向けた企業との連携経験が豊富

n 発表内容

- 「不衛生な環境と子どもたちの発育不全」に該当するデリーの水衛生課題に対してインドで取り組んでいる
- デリーでは、住民や動物が路上にて排泄をしてしまい、感染症の蔓延につながっているという課題がある
- それに対するソリューションとして、AT&TとReckitt Benckiserと共同で公衆トイレ・シャワー施設10室を設置した
- ハード面の設置だけでなく、BASFと共同で、水のATM・ソーラーパネル・し尿処理設備導入も実施した。これらの導入完了後、さらなる課題としてスラム地域周辺にある学校の水衛生設備が不衛生であることが挙げられた



n ディスカッション

- 地方自治体との連携を高めるべきである。デリーの場合、何本か衛生関連のプロジェクトが走っているため、自治体と足をそろえることが重要
- 施策後のモニタリングを徹底するべきであるということ。施策終了後の自然消滅を防ぐため、現地を絡めて活動する必要がある。現在インドでは、バイオトイレの設置が流行っているが、その保守運用が追い付いていない現状がある。そういった部分にもテクノロジーで対策がとれれば包括的なアプローチが可能
- 「不衛生による汚れ、感染症リスク」を現地に課題として認識させ、「トイレは清潔に保つべきだ」と実感させる必要がある。現状、現地では、トイレを掃除すべきという認識がされておらず、この点を課題として考える必要があるのではないか

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

シーズ発意型の発表

シーズ発意型ビジネスの検討では、ヤマハ発動機株式会社より浄水装置のインドへの展開に関連する課題について発表いただいた。

n ヤマハ発動機の特徴

- インド現地での事前調査も完了している
- アフリカでの導入実績が多数あるが、インドでの導入が進んでいないという悩みがある
- 大企業からイノベーションを起こすために、もう一工夫が必要な段階である

n 当日の発表内容

- 浄水装置の設置・販売を実施しており、アジア及びアフリカにて40機強の設置実績がある
- 装置の特徴は、砂や砂利を利用した緩速ろ過をベースとしており、凝集剤や膜が不要であるという点である。その結果、現地での容易なメンテナンス、現地共同体による運営が可能となっている
- 地下水が主流のインド国内において緩速ろ過商品の需要把握が出来ていない、インド主要政府と地方政府の関係が複雑でありキーパーソンに会えていない、自治体の購入資金確保が難しく、装置の浸透が滞っているの3点が課題として挙げられる



n ディスカッション

- 装置設置によって、改善された数値等(感染症の発生率、等)のエビデンスがあれば現地での資金調達の可能性も高くなる
- 現地微生物や現地砂砂利は、現地調達することでコストを下げる事が可能となる。また、他の地域に展開するうえでも重要である
- インドのサイエンステクノロジー省では、ウォーターテクノロジーミッションというプロジェクトや関連する6つのラボが立ち上がっており、砂や砂利、微生物を用いたろ過の研究している。その研究においては、インドの材料を用いているため、ヤマハ発動機様の課題にも協力できるのではないかと

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン リアルイベントの開催

地域連携型の発表

地域連携型ビジネスの検討では、福岡県よりデリー準州と取り組んでいる大気汚染分野での取り組みについて発表していただいた。

n 背景

- 福岡県はデリー準州と友好関係を結んでおり、その関係の下で大気汚染分野について福岡県環境部とデリー準州環境省が連携している
- 実際に動いているのは環境省下に設置されたDPCC (Delhi Pollution Control Committee) という組織で、ここが実質的なカウンターパートとなっている

n 発表内容

- 19年度の大気汚染の取り組みとして有識者の助言を参考に現地における基礎調査、平行して国内でシーズ調査を実施している
- 今年度実施した調査によって現地の体制などが徐々に分かってきた状況である
- 発生源への対策、モニタリング時の分析技術の向上・効果的な大気汚染対策のシュミレーション実施を2021年以降に事業展開フェーズへ移行を計画している

地域間連携によるメリット

- n 日本の都市と海外の都市との関係の中で、途上国の課題解決に向けた取組みは数多くある
- 例えば…
- 京都市とインドのパラナシ市のような姉妹都市(環境教育や、河川浄化、スマートシティ関連の取組み)
 - 横浜市が行うシティーネット(多様な都市との連携)のような活動(防災等)
 - 川崎市とインドネシアのバンドン市との都市間連携(省エネ、交通、廃棄物)
- n SDGsの取組みを都市間連携によって行うことで、地方創生にも寄与
 - n 途上国課題のソリューションとして、日本の地方都市にある企業クラスターやエコシステムの中から効率良く選択することができる

n ディスカッション

- 発生源を見る研究としては、東大から首都大学東京に移った教授が研究していた。結局何が大きな原因かわかっていないと現地JETROも証言しており、その原因がわかれば解決につながる紹介等もできる可能性がある。

4 . 運用の試行・実証

(1) オフライン

(2) オンライン

4 . 運用の試行・実証

(1) オフライン

(2) オンライン

搭載する機能の検討

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

各ページの作成方針(案)

	Home	About Us	ニーズ情報	Innovation Seeds	Stories	イベント情報・新着情報	問合せ
概要	トップページ	本プラットフォームの説明	-	シーズの一覧及び詳細	優良事例の一覧及び詳細	SDGsに関するイベント情報及び本Webサイトの新着情報	問い合わせフォーム
デザインに必要な要件	<ul style="list-style-type: none"> 全体感・統一感 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的にわかりやすい 	-	<ul style="list-style-type: none"> データベース 必要項目の整理 SDGsテーマの付記 	<ul style="list-style-type: none"> 読み物 シーズ活用を促す動機付け 	<ul style="list-style-type: none"> 時系列での情報整理 	<ul style="list-style-type: none"> どれが入力必須項目かなど、ナビゲーションとして分かりやすくになっている
ページの役割(機能)	<ul style="list-style-type: none"> 各情報への誘導 活発な情報更新の印象想起 	<ul style="list-style-type: none"> 本サイトの活動やフィロソフィーをポジティブな印象で表現 	-	<ul style="list-style-type: none"> 日本発の技術情報をわかりやすく魅力的に訴求 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を単に記載するのではなく、読み物として届ける 	<ul style="list-style-type: none"> 特に見せたい情報、ページへの誘導 	<ul style="list-style-type: none"> スムーズかつ最小限の項目入力による問い合わせ促進
デザイン上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 情報の流動性、先進的なイメージ、各セクションごとに、性質を分けたデザイン表現 	<ul style="list-style-type: none"> シンプルながらもSDGs感や明るいイメージ、温かみの感じられるページ設計 	-	<ul style="list-style-type: none"> 写真素材のレイアウトをパターン化し、煩雑な素材でも治りよくレイアウトできる情報設計 	<ul style="list-style-type: none"> 退屈に見えないレイアウト、多様な性質の写真素材やロゴ等に対応できる汎用性 	<ul style="list-style-type: none"> 事例と同じく、退屈に見えないレイアウト、他の情報への回遊設計 	<ul style="list-style-type: none"> 入力のしやすさ(表示項目の簡素化) エラー表示のタイミング、表示場所、注意色の設計

ニーズ情報についてはビジネス支援サイトへの掲載が望ましいため、Solution hubへは掲載しない

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

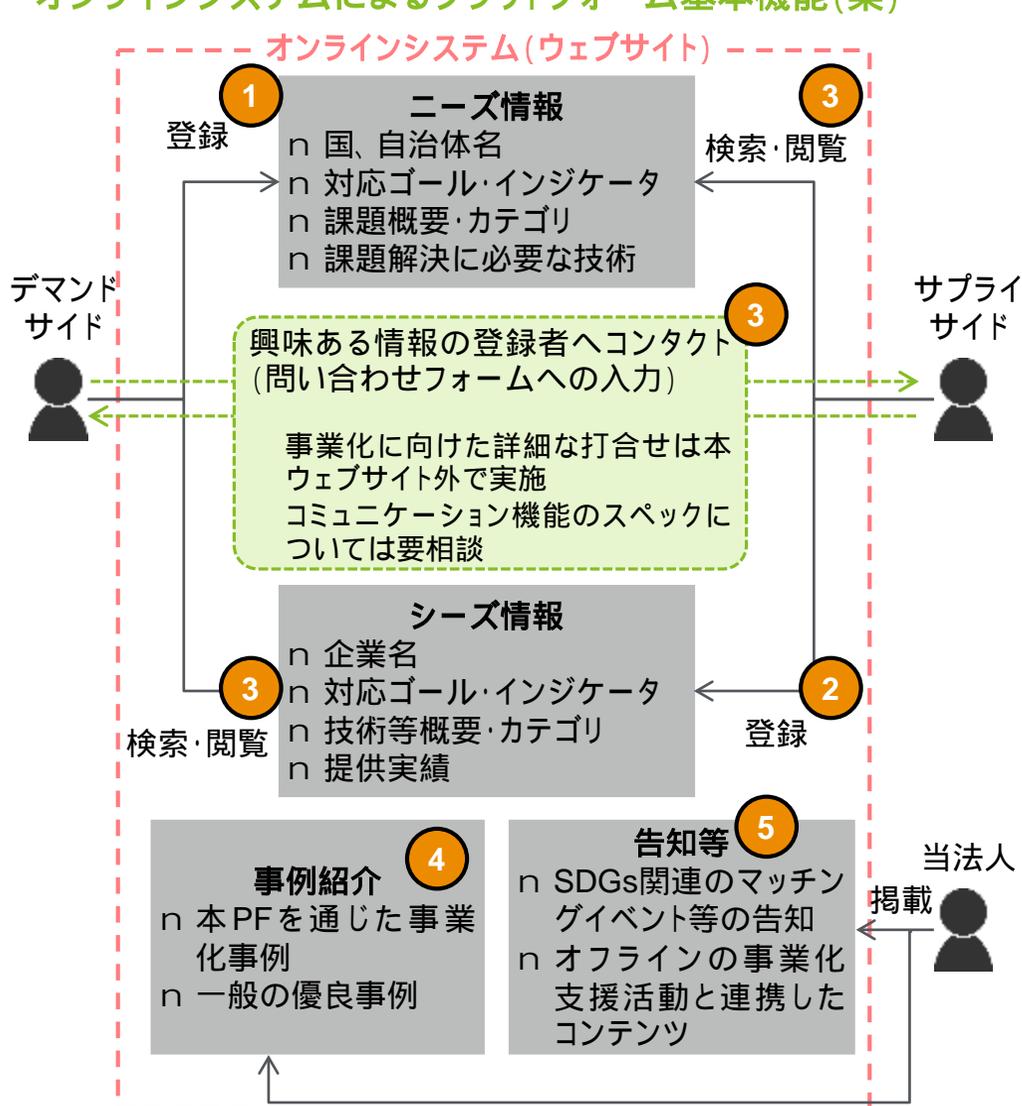
Webの開発項目概要【当初予定からの変更】

		当初予定	修正版
目的		<ul style="list-style-type: none"> ポータル仕組みを用いたマッチング 施行運用を踏まえた追加機能の確認・次年度以降に向けた検証 	
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 内閣府による取組概要・将来像紹介 日本のシーズ紹介 ニーズ情報・シーズ情報を基にしたマッチングの試行 関係機関間での合意・要件定義(情報連携の仕組み) 管理者、会員に関する機能 	<ul style="list-style-type: none"> 内閣府による取組概要・将来像紹介 日本のシーズ紹介 検索機能によるマッチングの試行 情報連携の仕組みの要件等の検討 管理者に関する機能
必要なコンテンツ		<ul style="list-style-type: none"> Webの構築 コンテンツ拡充、機能追加 関係機関からの情報収集 連携機関の情報連携要件(システム)整理 	
Output(Web)	トップページ	TICAD時点で完成	TICAD時点で完成
	About us	サイト概要情報、イメージ図	サイト概要情報、イメージ図
	ニーズ情報	10～20件(関係機関等による手入力)	情報なし(作成しない)
	シーズ情報	150件ほど	50件ほどとし、代替として検索機能を搭載
	事例紹介	10事例ほど	5事例
	イベント情報	マッチングイベント開催情報、各種イベント情報	検討の結果、導線の円滑化、情報の整理を目的とするため、イベント情報と新着情報を統合、各種イベント及び更新状況を掲載
	新着情報	更新状況記載	
	お問い合わせ	連絡先、Mailなど、連携機関情報	お問い合わせフォーム

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

オンラインシステムによるプラットフォーム基本機能(案)



ニーズ情報の収集。	1	マンドサイドが、SDGs 達成上の課題を入力できる機能。入力の際には「課題名」「国名」「自治体名」「対応する SDGs のゴール/ターゲット/インジケータ」「課題の概要」「課題解決に必要な技術」等の項目を設定し、検索・マッチング等の際に活用する。
シーズ情報の収集。	2	サプライサイドが、SDGs 達成に資する技術情報を入力できる機能。入力の際には「技術名」「提供者名」「対応する SDGs のゴール/ターゲット/インジケータ」「提供実績」等の項目を設定し、検索・マッチング等の際に活用する。
ニーズ・シーズ情報の、簡易的なマッチング。	3	入力したニーズ・シーズ情報を閲覧できる機能。設定した項目等で互いに親和性の高い情報を検索できるほか、必要に応じ相互にコンタクトできる等、簡易的な情報マッチングをオンライン上で行うことを想定する。
成功事例の発信。	4	プラットフォームを通じて事業化した優良事例の紹介。なお、当面は既存の(本プラットフォームのマッチングに拠らない)一般の優良事例の掲載も行うものとする。
その他。	5	ニーズの詳細情報をオープンコールの形式で掲載したり、マッチングイベントの参加者募集を行ったりする等、「オフラインを中心とした事業化支援活動」と連動した機能・コンテンツ。既存の SDGs 関連のマッチングイベント等の告知も併せて行えるものを想定する。 またその他にも、オンラインシステムの運用およびオフラインの事業化支援を効率化・最大化するために必要な機能・コンテンツがあれば検討する。

- 確認事項**
- 「ニーズ・シーズ情報の簡易的なマッチング」の、ウェブサイト上でのデマンドサイドとサプライサイドのやり取りは、コンタクトのみ(サイト上でのチャットは無し)を想定しているが、問題ないか
 - 「その他」の、ニーズの詳細情報をオープンコールの形式で掲載とはどのようなイメージかを今後精査する

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

各ページに搭載する機能(案)

コンテンツ	ページ	機能	概要	ビジター向	会員向け	管理者
Home	Home	ログイン・ログアウト	会員ページへのログイン・ログアウト機能			
Home	Home	情報検索バー	Webページ全体の検索機能			
マッチング	リストページ	情報検索機能	リストの絞り込み機能			
マッチング	TBD	オンラインオファー機能	オンラインでの簡易マッチング			
マッチング	TBD	質問機能	ユーザー間のやり取り			
マッチング	TBD	レコメンド機能				
マッチング	TBD	いいね！ボタン	オファー前段階での関心の有無をみえるようにする			
Stories	情報登録ページ	情報登録・更新機能	事例情報の登録・編集機能			
Stories	リストページ	検索機能	リストの絞り込み機能			
Innovation Seeds	情報登録ページ	情報登録・更新機能	シーズ情報の登録・編集機能			
Innovation Seeds	リストページ	検索機能	リストの絞り込み機能			
ニーズ	情報登録ページ	情報登録・更新機能	ニーズ情報の登録・編集機能			
ニーズ	リストページ	検索機能	リストの絞り込み機能			
イベント情報	イベント予定情報	イベント登録機能	新規イベントの登録機能			
新着情報	新着情報履歴一覧	新着情報登録機能	TBD			
About Us						
お問い合わせ	お問い合わせ	問い合わせフォーム	問い合わせフォーム			
会員画面	会員登録	会員登録	アカウント登録機能 ニーズ会員とシーズ会員に分ける？			
会員画面	会員情報	会員情報修正	会員情報の確認・修正			
会員画面	問い合わせ内容一覧	お問い合わせ内容確認				
会員画面	案件一覧	お気に入り案件登録				
ページなし	ページなし	アクセス解析	アクセスログの解析			
ページなし	ページなし	データ連携	他組織のDBとのデータ連携 (今年度は実装なし、事前の検討のみ)			

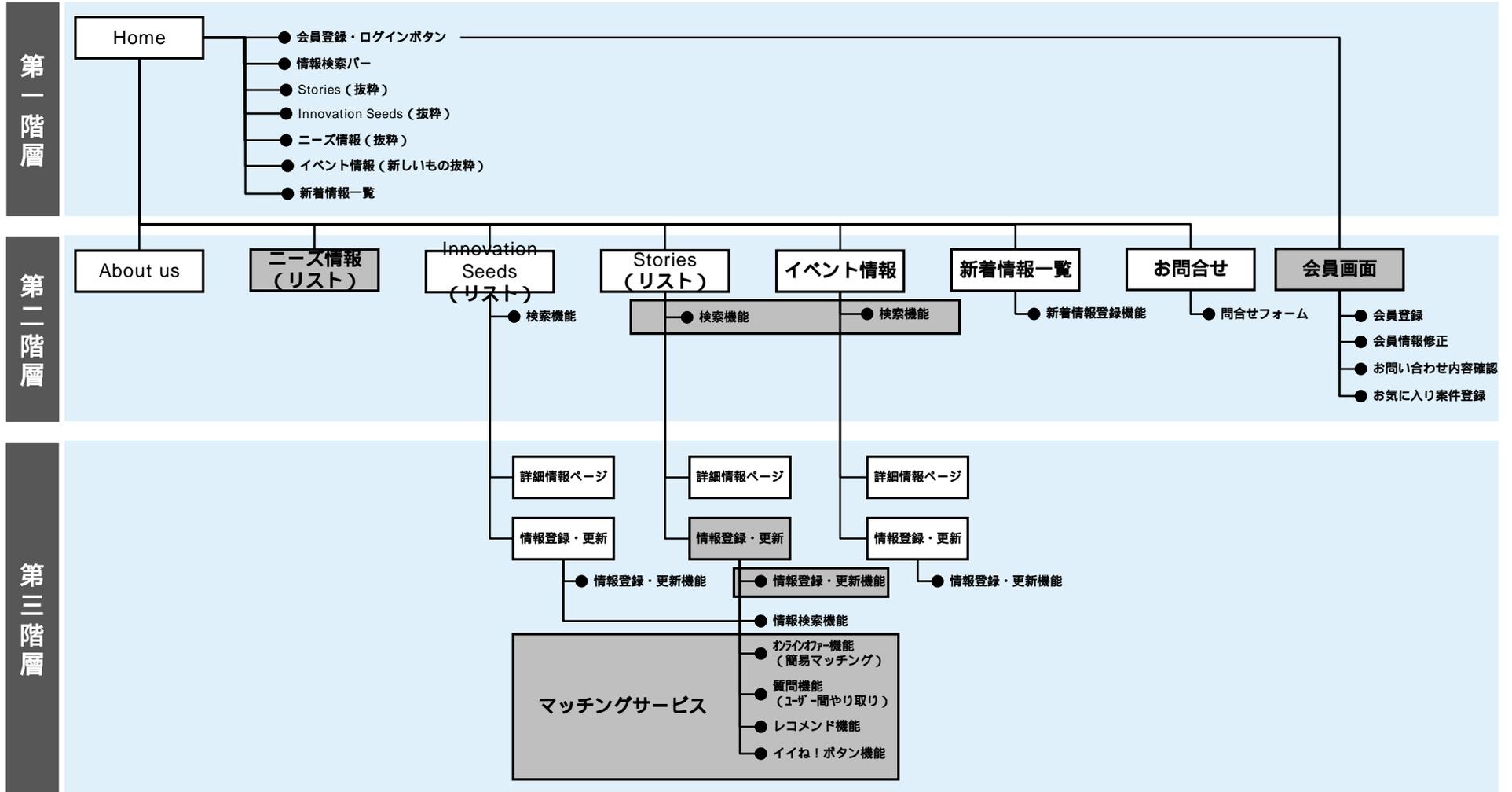
会員機能については、
来年度以降に拡張を検討
する

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

STI for SDGsプラットフォームWEBサイトマップ(修正版)(案)

凡例



4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

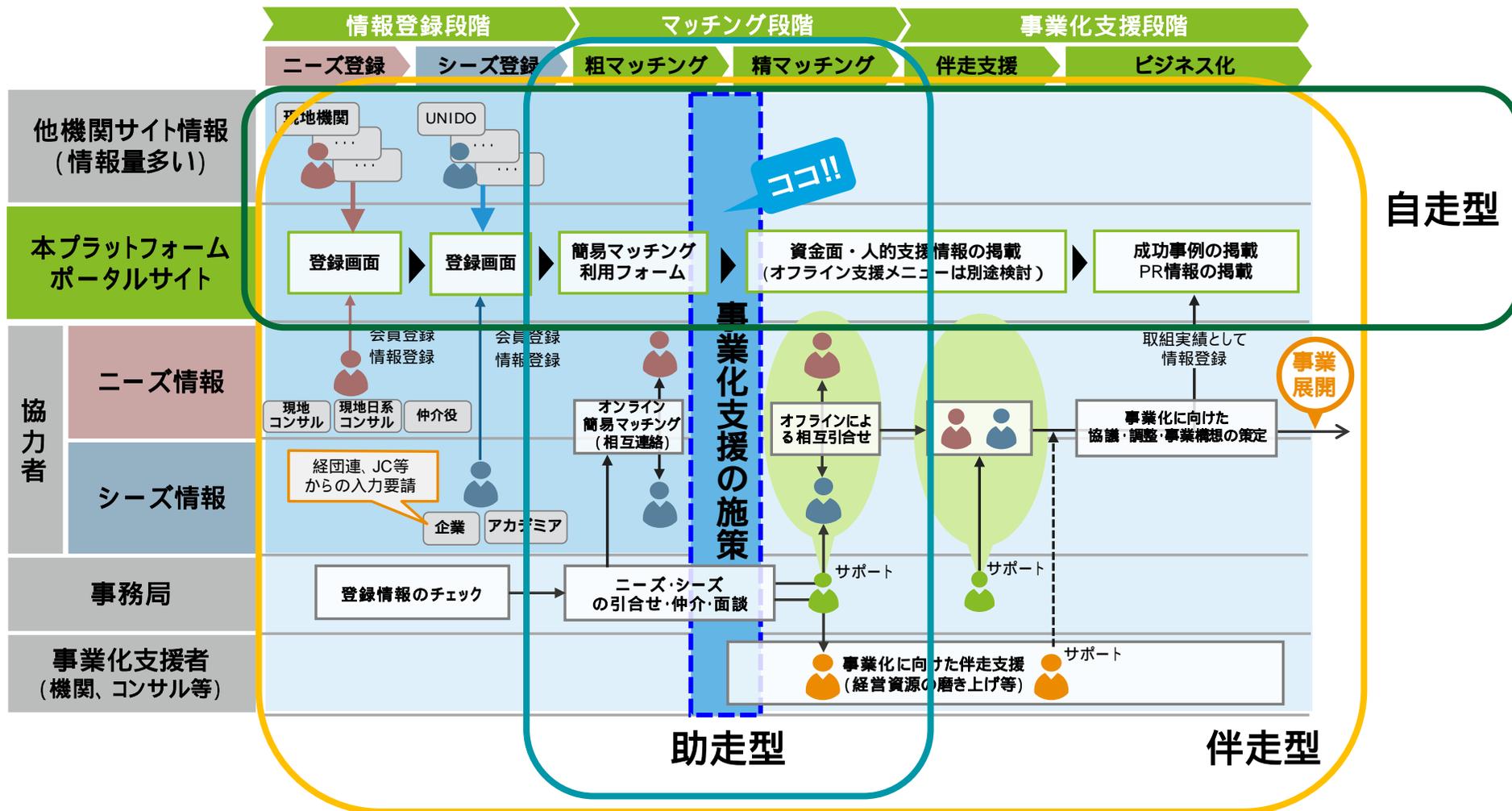
マッチング支援のタイプ

	伴走型		助走型		自走型	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ☐ 事務職・ディール会議で案件の掘り起こしを行う ☐ ニーズ・シーズのマッチングから事業化までディール会議・事務局主導で進める 		<ul style="list-style-type: none"> ☐ ニーズ・シーズのマッチングを行い、事業化に向けた足掛かりを作ること支援する ☐ マッチング後は当事者が主体となって進める 		<ul style="list-style-type: none"> ☐ ニーズ・シーズの情報提供など、マッチングに必要なインフラを提供する ☐ ニーズ・シーズのマッチングから事業化まで、当事者が主体となって進める 	
ステークホルダー	ニーズ側	シーズ側	ニーズ側	シーズ側	ニーズ側	シーズ側
	事務局	ディール会議	事務局	ディール会議	事務局	ディール会議
マッチングの成立確立	高		中		低	
シーズ/ニーズサイドの負荷	小		中		大	
事務局/ディール会議の関与	高		中		低	
情報管理・精査の難易度	高		中		低	

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

各タイプのカバー範囲



4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

本PFにおけるマッチング支援の方針(案)

		伴走型	助走型	自走型
案件のイメージ		<ul style="list-style-type: none"> ü ビジネスになりにくいもの 	<ul style="list-style-type: none"> ü ビジネス化に向けて情報やリソース等が一部不足しているもの 	<ul style="list-style-type: none"> ü 一定程度ビジネス化の目途がついているもの
特徴	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ü マッチング～事業化まで事務局が関与するため、情報の精度が一定程度に保たれる ü 専門家によるマッチング及び事業化支援が行われるため、マッチングが成功する可能性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ü ニーズ・シーズサイドが保有する既存のリソースやコネクションを有効活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ü (精度は低いものの)多数のマッチングや意外なマッチングができる可能性がある ü (ビジネス化しやすい案件については)短期間で成果が出やすい
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ü ニーズ・シーズの情報収集(整備)に時間を要するため、即時の状況提供が難しい ü 事業化まで事務局及びディール会議が主導で進めるため、ビジネス化後の自立がうまくいかない可能性がある ü 事務局の負荷が高く、コストがかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ü ニーズ/シーズサイドの状況により必要とされる支援が異なるため、どこまで支援を行うかを見極める必要がある ü マッチングしても事業化まで進まない可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ü リソースやコネクションに限りがある中小企業ではマッチング～事業化に至るのが難しい ü 状況をモニタリングすることが難しい ü 既存のポータルサイトで成功しているところが少ない
Web機能イメージ(案)		<p>【ニーズ/シーズ/事例の掲載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ü ニーズ・シーズ登録申請機能(事務局での許可制) <p>【マッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ü チャット機能(事務局にてモニタリング、必要に応じて介入) ü 問い合わせ機能 	<p>【ニーズ/シーズ/事例の掲載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ü ニーズ・シーズ登録機能(不適切な情報は事後的に事務局で修正・削除) <p>【マッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ü チャット機能(事務局にてモニタリング) ü 問い合わせ機能 	<p>【ニーズ/シーズ/事例の掲載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ü ニーズ・シーズ登録機能 <p>【マッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ü 連絡先交換

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

Innovation Seeds及び優良事例の検索機能

検索項目	概要	選択様式	選択項目
SDGsゴールターゲット	SDGsのゴールターゲットで絞り込み	チェックボックス (複数選択)	17個のSDGsのゴールターゲット
地域・国	技術提供する会社等の所属する国・地域	地域(ブルダウン) > 国(ブルダウン)	既存の国・地域の一覧を活用することを想定
技術	提供する技術のタイプ・種類	要検討	要作成
実現可能性(ニーズ)	ニーズサイドの困りごとの分類(例:衣食住)	要検討	要作成
フリーワード検索	フリーワード(テキスト)による検索	フリーテキスト	-

優良事例の検索のみ

情報の解釈、データの付与が必要なため、来年度以降を想定

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

お問い合わせページ

The screenshot shows the 'Contact us' page of the SDGs Solution Hub. The page has a navigation bar at the top with links for Home, News, Innovation Seeds, Stories, About Us, and Contact. The main content area contains a contact form with the following fields: Name, Email, Phone, and Message. A red 'Send Message' button is located at the bottom of the form. The footer of the page includes the SDGs Solution Hub logo and the copyright notice: Copyright © 2023 SDGs Solution Hub. All rights reserved.

入力者の情報、連絡先を記入いただく

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン 搭載する機能の検討

外部機関との連携の深度(案)

浅 ↑ ↓ 深	連携方法	概要	合意形成・調整必要事項			
			外部機関との合意	(外部機関サイトの)掲載企業の情報連携の許諾	(外部機関サイトの)掲載企業の著作権・個人情報利用の許諾	システム連携・改修
	リンク掲載	n 外部機関の案件(技術)ページのURLを掲載し、クリックしてジャンプする		×	×	×
	情報転記(無加工)	n 外部機関の案件(技術)ページの情報の本ポータルフォーマットへ転記する				×
	情報転記(加工)	n 外部機関の案件(技術)ページの本ポータルフォーマットへ要約する				×
	データ連携	n 外部機関の保有するデータベース等から本ポータルページに自動転記する	自動連携については、来年度以降に引き続き検討を行う			

← 情報の2次利用の許諾(案件毎) →

4. 運用の試行・実証

(1) オフライン

(2) オンライン

プラットフォームの名称の検討

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン プラットフォームの名称の検討

プラットフォームのタイトル案提案までの流れ

STEP 1 タイトル・テーマの選定

- STI for SDGsプラットフォームの趣旨に則した以下のタイトル・テーマの選定を行った。
 - ビジネスの創出機会
 - マルチステークホルダーによる掛け合い
 - ディール会議の強調(別途、ご説明させていただきます)
 - 持続的なプロジェクト創出による途上国課題の解決
 - SDGsの達成とビジネスの実現を可能にするニュアンス

STEP 2 タイトルに用いるキーワードの抽出

- 上記のタイトル・テーマを基に、関連するキーワードをブレインストーミング方式で抽出し、キーワードとなる単語を列挙した。

STEP 3 キーワードのグルーピング

- STEP2で抽出されたキーワードを右記表のようにテーマ毎にグルーピングした。

本プラットフォームで頻繁に使用されている「SDGs」や「STI」などの単語
本プラットフォームで実現したい目的・結果そしてそれを達成するための手段に関連した単語
テーマに則した意味合いを持ち、語呂が良くインパクトを強調した単語

STEP 4 グルーピングを基にしたタイトル案の提案

- グルーピングを行ったキーワードごとに単語の組み合わせを行い、毎テーマ3つのタイトル案を抽出した。

タイトルに用いるキーワードのグルーピング

テーマ		キーワード
本プラットフォームに関するキーワード		<ul style="list-style-type: none">SDGsPlatform,InnovationSocial IssueSTISolution
コンセプト	手段	Partnership, Create Discussion, Lab, Round Table, Deal Meeting, Dialogue, Hub, Collaboration, Association, Enabler
	目的結果	Synergy, Ignition, Trigger, Spark, Scale, Realize, Business Development, Boost
語呂が良く、インパクトのあるキーワード		<ul style="list-style-type: none">InspireIgnitionGrowExpand

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン プラットフォームの名称の検討

タイトル案(例)

本プラットフォームで
頻繁に使用されたキーワードの
組み合わせ

- n STI for SDGs Platform
- n Solutions for Social Issues Platform
- n Solutions for SDGs Platform

手段と目的を強調し、
コンセプトを明確に伝える単語の
組み合わせ

- n Social Business Transformation
- n SDGs Business Accelerator
- n Sustainable Business Development

語呂合わせを考慮し、インパク
トを強調した組み合わせ

- n SDGs Business Scaling Enabler
- n INSPIRE
- n GROW

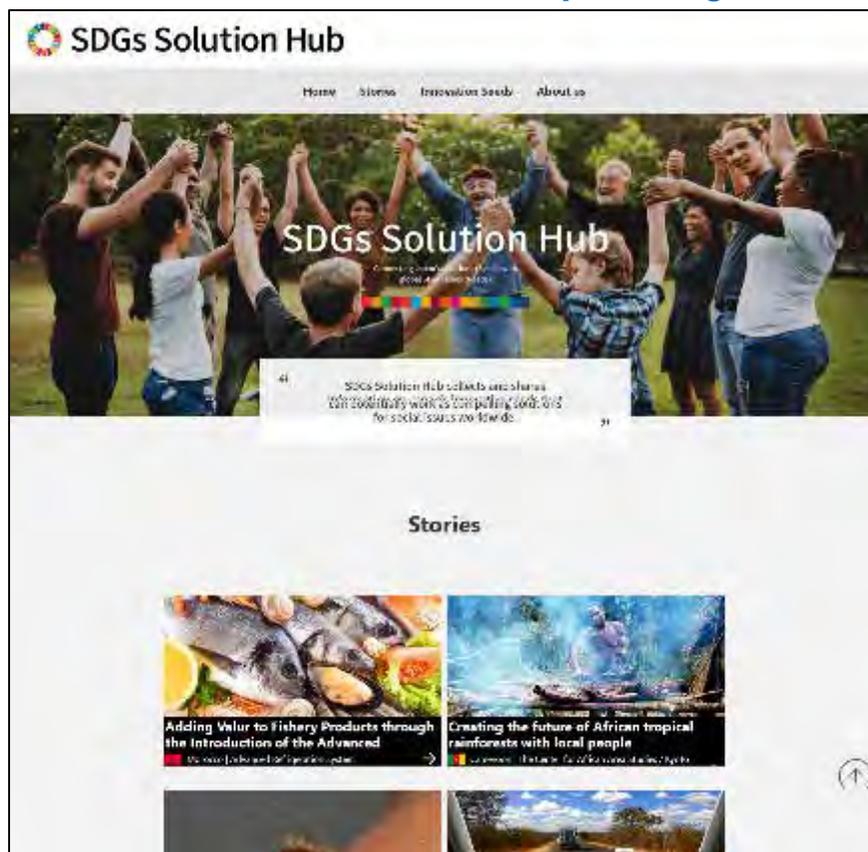
4. 運用の試行・実証

(2) オンラインプラットフォームの名称の検討

情報共有・発信システム(ウェブサイト)

オンライン機能のうち、「日本のシーズ」「優良事例」の発信部分を、ウェブサイト「SDGs Solution Hub」として8月末にプレオープンさせた。

<https://sdgs-solution-hub.go.jp/>



4. 運用の試行・実証

(1) オフライン

(2) オンライン

シーズ情報及び優良事例の収集・掲載状況

4. 運用の試行・実証

(2) オンライン シーズ情報及び優良事例の収集・掲載状況

シーズの掲載状況

ソース	掲載数
UNIDO STePP	47
JETRO ビジネスフォーラム	5
JETRO JICAスタートアップベンチャー	6
JST SATRT	3
JST SATREPS	2
その他	2

計 65件掲載

優良事例の掲載状況

- n Graduate School of Engineering / Nagasaki University
 - Ø The "Smart Water Turbine": Creating the innovative value using hydro energy
- n MARS Company
 - Ø Adding Value to Fishery Products through the Introduction of the Advanced Refrigeration System
- n Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC) / Nagasaki University
 - Ø Fighting against Infectious Diseases with a Warning System Integrating Different Areas of Research
- n The Center for African Area Studies / Kyoto University
 - Ø Creating the future of African tropical rainforests with local people
- n JIP Techno Science Co., Ltd.
 - Ø Smartphone makes roads safer and more comfortable!

計 5件掲載

5 . ステークホルダー連携会議の実施

- (1) 第1回ステークホルダー会議
- (2) 第2回ステークホルダー会議

5 . ステークホルダー連携会議の実施

- (1) 第1回ステークホルダー会議
- (2) 第2回ステークホルダー会議

5. ステークホルダー連携会議の実施

(1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー会合の開催概要

第1回ステークホルダー連携会議では、本プラットフォームの設立趣旨説明・課題仮設の共有・想定機能および期待値についての議論を実施した。

第1回ステークホルダー連携会議

開催日時	n 2019年7月3日(水)10時00分～12時00分	
開催場所	n 日本橋ライフサイエンスビルディング(中央区日本橋本町2-3-11)	
開催趣旨	n 現在に至るまでの経緯をステークホルダーに説明したうえで、現時点での検討状況を説明した。 n 本プラットフォーム構築に向けた課題点(備えるべき機能)や具体的な連携方法について意見交換を行った。 なお、課題点や連携方法について議論するに当たっては、非公式会合の際のアンケート内容を参考に用いた。	
プログラム	項目	内容
	1. 設立趣旨のご説明	○ ニーズ・シーズ情報の一元化と双方向によるコミュニケーションハブとしての機能を持つ本プラットフォームの構築の検討状況について説明した。
	ディスカッション	
	2. 課題仮説について	○ 既存プラットフォームが備えているサービス等を俯瞰してみた際の課題点をステークホルダー間で共有・認識の擦り合わせを行った。
	ディスカッション	
3. PFの想定機能について	○ オンライン機能/オフライン機能について、既存サービスを活用する部分と本プラットフォーム構築に合わせてサービスとして確立させるべき機能について意見交換を行った。	
ディスカッション		
4. PFへの期待値、連携の可能性について	○ 本プラットフォームの趣旨・想定機能を満足させるために、各ステークホルダーが有するリソース・情報との具体的な連携方法について意見を伺った。	

5. ステークホルダー連携会議の実施

(1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー会合の参加者一覧(1/2)

STIに関する専門的見地からの助言に加え、わが国におけるSTIシーズとニーズのマッチングを図るべく様々な立場の有識者が参加した。

団体名	役職	氏名(敬称略)	備考
内閣府	知的財産戦略推進事務局 参事官	中野 岳史	公的シーズ情報把握者
	知的財産戦略推進事務局 参事官補佐	下萩原 勉	公的シーズ情報把握者
経済産業省	経済産業政策局 産業創造課長 / 大臣官房 第四次産業革命政策室長 政策審議室長	佐々木 啓介	公的シーズ情報把握者
	経済産業政策局 産業創造課 / 第四次産業革命政策室 課長補佐	赤松 悠作	公的シーズ情報把握者
	経済産業政策局 産業創造課 総括係長 / 大臣官房 第四次産業革命政策室	佐々木 絵里	公的シーズ情報把握者
外務省	国際協力局地球規模課題総括課 課長補佐	岩崎哲也	ニーズ情報精通者
文部科学省	科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官(国際担当)付 国際総括係長	山本 智久	SATREPS担当者
環境省	大臣官房 総合政策課 環境研究技術室 調整係長	辻川 優佑	公的シーズ情報把握者
	大臣官房 総合政策課 環境研究技術室 調整係長	柳川 立樹	公的シーズ情報把握者
株式会社NTTデータ	ITサービス・ペイメント事業本部 SDDX事業部 マーケティングデザイン統括部 デジタルマーケティング担当 課長代理	伊東大輔	STI技術専門家
国立研究開発法人 科学技術振興機構	経営企画部 持続可能な社会推進室 調査役	劔持由起夫	シーズ情報精通者
クリエイターズコイン 株式会社	代表取締役	赤澤 正純	STI技術専門家
公益社団法人 日本青年会議所	事務局 2019年度副会頭	加藤 宗兵衛	ニーズ情報精通者
	事務局 2019年度価値デザイン会議 議長	菅野 讓	ニーズ情報精通者
株式会社クレアン	統合報告支援グループ マネジャー	富田洋史	CSR専門家
	サステナビリティ・コミュニケーショングループ 主任	衛藤未央子	CSR専門家
国際協力機構(JICA)	アフリカ部 次長	若林 基治	ニーズ情報精通者
	企画部 国際援助協調企画室 企画役	久保倉 健	ニーズ情報精通者

5. ステークホルダー連携会議の実施

(1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー会合の参加者一覧(2/2)

STIに関する専門的見地からの助言に加え、わが国におけるSTIシーズとニーズのマッチングを図るべく様々な立場の有識者が参加した。

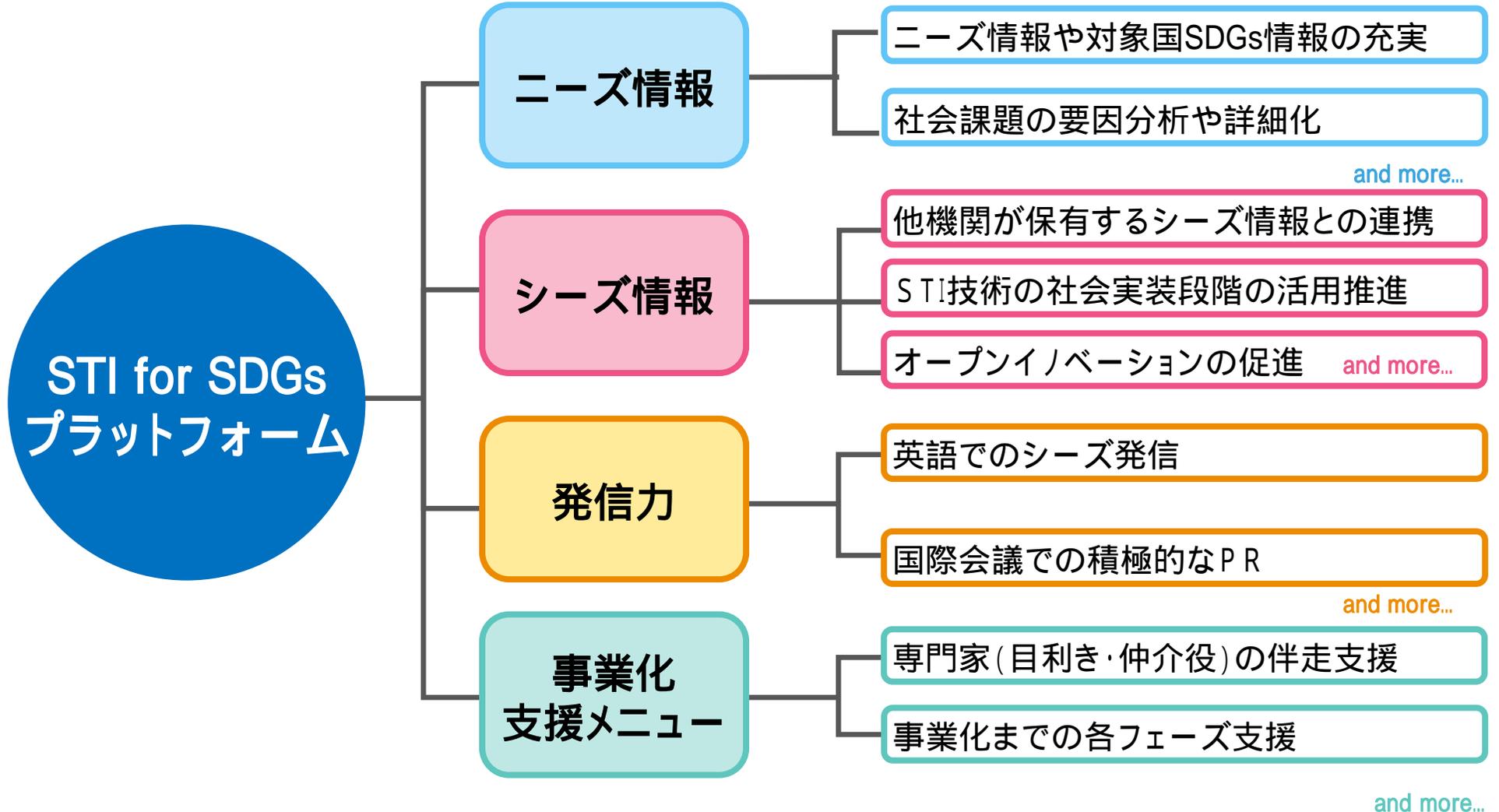
団体名	役職	氏名(敬称略)	備考
株式会社CB	執行役員(国際担当)	青山 有亜	シーズ情報精通者
WIPO日本事務所	カウンセラー	野口 洋平	シーズ情報精通者
一般社団法人 Japan Innovation Network (JIN)	事務理事 イノベーション加速支援 グループ長	西口 尚宏	SHIPプラットフォーム運営
	イノベーション加速支援グループ ディレクター	小原 愛	SHIPプラットフォーム運営
株式会社電通	ビジネス・デベロップメント&アクティベーション局 国際戦略部 シニア・ストラテジー・ディレクター	佐藤 和直	シーズ情報精通者
豊田通商株式会社	渉外広報部 海外渉外室長	羽田 裕	アフリカビジネス協議会 ファシリテーター
	アフリカ本部 理事	鈴木 健司	開発途上国ビジネス専門家
国際連合工業開発機関 (UNIDO)	東京投資・技術移転促進事務所 所長	安永 裕幸	STePPプラットフォーム運営
	東京投資・技術移転促進事務所 コンサルタント	須藤 一	STePPプラットフォーム運営
	東京投資・技術移転促進事務所 プログラム・アシスタント	後藤 仁彦	STePPプラットフォーム運営
NEDO技術戦略研究 センター	マクロ分析ユニット 研究員	仲上 祐斗	STI技術専門家
	海外技術情報ユニット 研究員	藤島 義之	STI技術専門家
国連開発計画(UNDP)	UNDP駐日代表事務所 駐日副代表	阿部 智	ニーズ情報精通者
	UNDP駐日代表事務所 渉外・広報アシスタント	毛利 英之	ニーズ情報精通者
三菱商事株式会社	デジタル戦略部 サービスプラットフォームチーム 課長	染谷 悟	事業化専門家
富士通株式会社	ネットワークソリューション事業本部 サービスビジネス事業部 LCMサービス部	寺島 聡宏	STI技術専門家

5. ステークホルダー連携会議の実施

(1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー会合の議論の結果

第一回ステークホルダー会合の意見交換において、STI for SDGsプラットフォームとして備えるべき要件・機能について参加者と意見交換を実施した。



5. ステークホルダー連携会議の実施

(1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー会合の議論の結果(ニーズ情報について)

ディスカッション及びアンケートの結果、プラットフォームの運営においてニーズ情報の検討の強化の必要性、収集方法の困難さについて参加者から指摘をいただいた。



特に海外のニーズ情報が不足している。

(登壇発表コメントより)



シーズの方が情報が集まりやすいと思うので、ニーズ収集のアピールも必要だと感じた。

(アンケートより)



ニーズ情報のリテラシーの確保はどうするのか。

(アンケートより)



実際、現地のニーズ情報を収集することは難しい。

(アンケートより)



ニーズ情報の分析、ヒアリング力が必要と感じた。

(アンケートより)



ニーズを提供する方の信用点を見られる。

(アンケートより)

5. ステークホルダー連携会議の実施

(1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー会合の議論の結果(事業化に向けたマッチングについて)

ディスカッション及びアンケートの結果、ニーズとシーズのマッチングについて、インセンティブの必要性やマッチング手法についてご意見をいただきました。



ニーズとシーズの人を会わせるだけでは何も起こらない。

(登壇発表コメントより)



ODAを前提としたプラットフォームにしない方がいいのでは？(動き出すインセンティブ ビジネスに繋がる)

(ディスカッション時の意見より)



SDGsという観点から、ビジネスのネタとなる現地のニーズを提供することは、民間企業として当然考えなくてはいけいとは思う。一方で、商社が海外ビジネスを仕掛ける際は、他者からの持ち込み情報は信用せず、自分の足で稼いだ情報を頼りにしてビジネスを行う。

(ディスカッション時の意見より)



マッチングありきでのプラットフォームというより、関与する主体にとってのインセンティブ・モチベーションが継続するようなプラットフォームの位置付けも重要。

(ディスカッション時の意見より)

5. ステークホルダー連携会議の実施 (1) 第1回ステークホルダー会議

第1回ステークホルダー連携会議の様子



5 . ステークホルダー連携会議の実施

- (1) 第1回ステークホルダー会議
- (2) 第2回ステークホルダー会議

5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー会合の開催概要

第2回ステークホルダー連携会議ではニーズ情報の収集方法やマッチング手法について重点的に参加者と議論した。

第2回ステークホルダー連携会議

開催日時	n 2019年9月30日(月)13時30分～16時00分	
開催場所	n 会場:新東京ビル7階セミナールーム706-D,E (東京都千代田区丸の内3-3-1)	
開催趣旨	n 第1回ステークホルダー連携会合のなかで、ニーズ情報とシーズ情報の収集方法を確立させること、ビジネスマッチングをさせるためには双方の橋渡し役として仲介・目利き機能が必要であるという議論を行った。その議論結果を踏まえて、SDGs Solution Hubとして求められる具体的なオンライン・オフライン機能のあり方について議論をした。	
プログラム	項目	内容
	1. 第1回ステークホルダー会合の振り返り	○ STI for SDGsプラットフォームにおいて、「 <u>ニーズとシーズの二極による単純な構図ではない</u> 」という意見を踏まえて、 <u>特に現地課題情報(シーズ情報)の掘り下げ方、国内シーズへの届方について考察した。</u>
	ディスカッション 2. ニーズの収集手法	○ 前回会合で参加者の皆さんから課題点として「 <u>ニーズ情報の収集が難しい</u> 」「 <u>ODAありきではないビジネスに仕上げるための情報収集が必要</u> 」という意見があった。これらの意見を基にディスカッションを実施した。
	ディスカッション 3. マッチング(案件化創生に寄与するアクション)仕掛け	○ 前回挙げられたもう1つの課題点として「 <u>情報をWebに入力しただけではマッチングは起こらない。マッチングの仕掛けが重要</u> 」という意見があったため、マッチングの仕掛けについてディスカッションを実施した。

5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー会合の参加者一覧(1/2)

STIに関する専門的見地からの助言に加え、わが国におけるSTIシーズとニーズのマッチングを図るべく様々な立場の有識者が参加した。

団体名	所属	氏名	備考
内閣府	知的財産戦略推進事務局 参事官	中野 岳史	公的シーズ情報把握者
	知的財産戦略推進事務局参事官補佐	下萩原 勉	公的シーズ情報把握者
株式会社NTTデータ	ITサービス・ペイメント事業本部 SDDX事業部 マーケティングデザイン統括部 デジタルマーケティング担当 課長代理	伊東大輔	STI技術専門家
国立研究開発法人 科学技術振興機構	経営企画部 持続可能な社会推進室 調査役	劔持由起夫	公的シーズ情報把握者
外務省	国際協力局地球規模課題総括課 課長補佐	岩崎哲也	ニーズ情報精通者
環境省	大臣官房総合政策課環境研究技術室 係員	柳川立樹	公的シーズ情報把握者
株式会社クレアン	統合報告支援グループ マネジャー	富田洋史	CSR専門家
	サステナビリティ・コミュニケーショングループ 主任	衛藤未央子	CSR専門家
経済産業政策局	産業創造課 参事官補佐	赤松悠作	公的シーズ情報把握者
国際協力機構(JICA)	社会基盤・平和構築部次長	荒仁	ニーズ情報精通者
株式会社CB	執行役員(国際担当)	青山 有亜	シーズ情報精通者
デロイトトーマツ ファイナンシャル アドバイザー 合同会社 (DTFA)	I&CP シニアアナリスト	大沼久美	事業化専門家
	I&CP シニアアナリスト	Alterescu, Samuel	事業化専門家
	I&CP シニアアナリスト	高砂 美和子	事業化専門家

5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー会合の参加者一覧(2/2)

STIに関する専門的見地からの助言に加え、わが国におけるSTIシーズとニーズのマッチングを図るべく様々な立場の有識者が参加した。

団体名	所属	氏名	備考
株式会社電通	ビジネス・デベロップメント&アクティベーション局 国際戦略部 シニア・ストラテジー・ディレクター	佐藤 和直	STI技術専門家
		伊東美穂	STI技術専門家
有限責任監査法人 トーマツ	RA新規事業 シニアマネージャー	Sheikh, Shariar Hossain	ニーズ情報精通者
豊田通商株式会社	渉外広報部海外渉外室長	羽田裕	アフリカビジネス協議会 ファシリテーター
NEDO技術戦略研究 センター	マクロ分析ユニット 研究員	仲上祐斗	STI技術専門家
	海外技術情報ユニット 研究員	藤島義之	STI技術専門家
富士通株式会社	ネットワークソリューション事業本部 サービスビジネス事業部 LCMサービス部	上村城慈	STI技術専門家
PwCコンサルティング 合同会社	マネージャー	北原 菜由香	事業化専門家
	シニアアソシエイト	篠崎 亮	事業化専門家
国際連合工業開発機 関 (UNIDO)	東京投資・技術移転促進事務所 所長	安永裕幸	STePPプラットフォーム運営
	東京投資・技術移転促進事務所 コンサルタント	須藤一	STePPプラットフォーム運営
国連開発計画 (UNDP)	駐日副代表	阿部智	ニーズ情報精通者
レックスパート・ コミュニケーションズ 株式会社	コンサルティング事業マネージャー	Imanishimwe, SameI	事業化専門家
WIPO日本事務所	WIPO日本事務所 カウンセラー	野田 洋平	シーズ情報精通者

5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー会合の議論結果

第1回ステークホルダー会合の議論を踏まえ第2回ステークホルダー会合では、論点として以下2点について議論した。

1

シーズ主体にとって有益と思える
ニーズ情報の収集が難しいのではないか？

ディスカッションの論点①

- n 現地ニーズの集め方とは？
- n 日本企業にとって有益な情報とは？
- n 具体的にはどのような情報をニーズ情報として捉えるのか？

2

情報を単にポータルサイトに入力しただけではビジネス案件化創出につながるアクションは起こらない。従って、**事業化支援施策との連携性が重要**になる。

ディスカッションの論点②

- n 事業創造に向けてデマンドサイドとサプライサイドの各者が動き出すような事業化支援施策とは？
- n オンラインとオフラインの一連の取り組みイメージを考える

5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー会合の議論結果(ニーズの捉え方について)

ディスカッションからニーズの捉え方について、情報を収集する際に必要となる視点や収集後のプラットフォームにおける活用方法について議論した。



ü シーズ(日本企業)がどのようなニーズを欲しているか理解したい。

(ディスカッション時の意見より)

ニーズの集積がある程度実現されないと、ビジネスチャンスと認識してもらえないのでは。

(ディスカッション時の意見より)



ü 食品会社として、世界の食に関するニーズにどう応えていくかをビジネスを通して取組んでいる。

ü しかし、ニーズがあるから、進出するという発想にならない。重要なのは、信頼できる情報であるか、その情報にビジネス上のメリットがあるか、である。そのような情報を発信している環境はない為、結局自社で情報を取りに行った方が早い。

(ディスカッション時の意見より)



ü ニーズから事業化するにはオーナーシップが重要である。

ü ニーズ収集は長期目線で取り組まなければならない。

(ディスカッション時の意見より)



5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー会合の議論結果(事業創造を試行するうえでの留意点)

ディスカッション及び参加者アンケートから事業創造を試行するうえでの留意点について、事業創造する際の資金調達やニーズ情報の重要さや捉え方について議論した。

- ü 何故、いきなりマッチングという話になるのかが違和感を覚える。まずは、大前提としてニーズが把握できていない点が、SDGs達成における問題ではないか。
- ü SDGsを世界的に目指す中で、各国にとってSDGs達成のために何が必要か？まず、潜在的ニーズをニーズとして認知してもらえるような議論や発信が大切。

(ディスカッション時の意見より)



- ü 案件創造に対するモチベーションを上げるようなインセンティブが必要。
(アンケート内容より)

- ü 公的資金をアテにすべきではないが、しかしタネ銭は必要。
(アンケート内容より)



- ü 資金の出し手の巻き込みを増やしていくべき。
(アンケート内容より)



5. ステークホルダー連携会議の実施 (2) 第2回ステークホルダー会議

第2回ステークホルダー連携会議の様子



6 . 国際会議等における取組み発信

(1) G20(つくば)

(2) TICAD7

6 . 国際会議等における取組み発信

(1) G20(つくば)

(2) TICAD7

6. 国際会議等における取組み発信 (1) G20(つくば)

G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合の様子

展示ブースに設置するパネルに4つのマッチング事例を掲載しました。



日時: 2019年6月8日(土)
9日(日)

場所: つくば国際会議場

主催: 総務省・外務省・
経済産業省

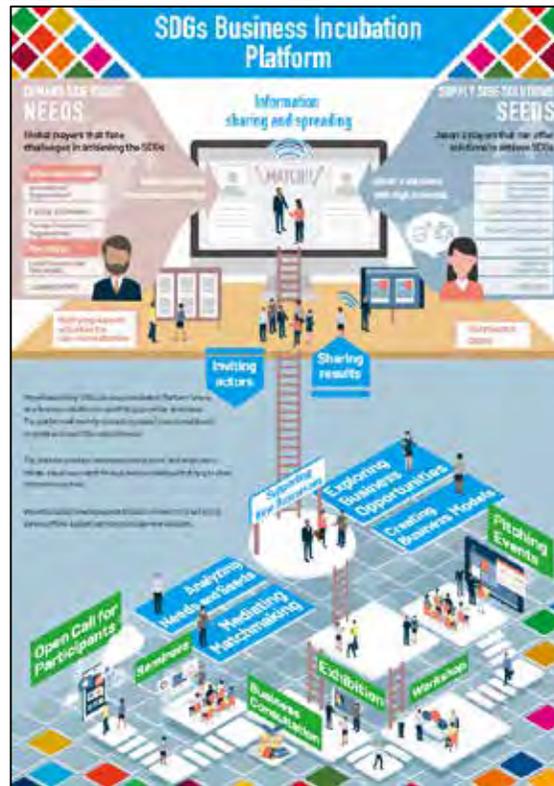
参加者: 約 1,000 名
(各国・国際機関の代表団、
プレス関係者、等)

"SDGs Business
Incubation Platform"

Japan will establish the platform for matching up SDGs needs around the world with Japan's solution seeds, designing and incubating new businesses, and making contribution to the achievement of SDGs.

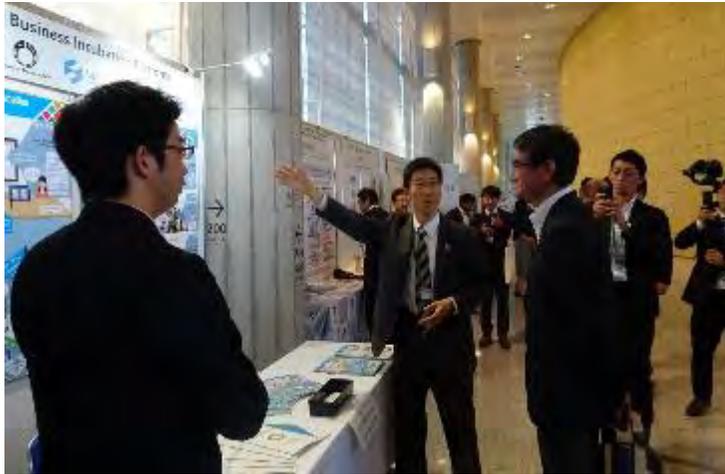


(出展者: 内閣府、外務省、経産省、環境省)



6. 国際会議等における取組み発信 (1) G20(つくば)

G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合の様子



河野外務大臣(当時)への説明



パネル展示の様子



各国閣僚、報道関係者等への説明

6. 国際会議等における取組み発信 (1) G20(つくば)

パネルに掲載したマッチング事例(1/2)



ルワンダで 効果的な雷害対策の開発

これまで現地課題として雷害対策の製品を販売する外国企業は存在していたが、その運用に関する教育は十分にされていないことが課題。

この課題を受け、ルワンダで効果的な雷害対策に係る製品・運用の支援を展開。具体的には避雷製品の販売のみならず、機器運用ノウハウを含む技術や知識の移転、人命を守る対策も実施。

NEEDS
ルワンダ

落雷被害

MATCH!!

SEEDS
避雷技術



タイ国における インフラ維持管理技術の向上

現地課題として慢性的な維持管理に充当する財源不足に加えて、インフラの劣化・損傷を把握するための点検の質・量・精度が適切な修繕計画の策定に対して、十分な水準になかった点に着目。

自社開発の劣化・損傷計測機器を用いた点検手法及び点検データの活用に係る研修・セミナーを開催し、現地技術者を育成。事後保全ではなく、予防保全によるインフラ維持管理を推進するための基盤環境の整備を支援。

NEEDS
タイ

インフラの老朽化

MATCH!!

SEEDS
インフラ維持管理技術

インフラ
管理システム

6. 国際会議等における取組み発信

(1) G20(つくば)

パネルに掲載したマッチング事例(2/2)



ネパール農村地域での安定した電力供給を目指す

ネパールにおいて地方農村部の貧困削減は重点対策分野であり、課題解決のためのエネルギーインフラ整備として水力発電およびその他の代替エネルギー開発が優先取り組み分野の1つ。水の流れて発電できる軽水力発電機の設置による農村地域の安定的なエネルギー供給体制の整備を支援。加えて、教育現場の電化やネパールでの製造技術向上を実施。

NEEDS
ネパール

電力不足

MATCH!!

SEEDS

軽水力発電



モロッコにおけるコールドチェーン管理の改善

モロッコでは、農水産分野の就労人口割合が高い一方で、それに占める GDP 構成比が低いことが課題。よって、農水産分野の生産性向上及び高付加価値化、農業振興が必要。コールドチェーン技術が未発達であることを背景に、食材を冷凍せずに従来冷蔵庫の3～10倍の鮮度保持を実現する高度冷蔵装置を設置。水産物に対する長期鮮度保存、鮮度評価、安全評価等を科学的に実証し、普及に向けた支援を展開。

NEEDS
モロッコ

コールドチェーンの未開発

MATCH!!

SEEDS

農林水産物のフードバリューチェーン

6 . 国際会議等における取組み発信

(1) G20(つくば)

(2) TICAD7

6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

TICAD7の様子

2019年8/28～30に開催された「第7回アフリカ開発会議」の複数のイベントにて、STI for SDGsプラットフォーム構築へ向けた取り組みと「SDGs Solution Hub」の開設についてPRした。



(左上) テーマ別会合にてウェブサイトのローンチに言及する科学技術担当大臣
(左下) TICAD7の会場で配布した「SDGs Solution Hub」を紹介する販促資材(うちわ)

参考

TICAD7 横浜宣言2019



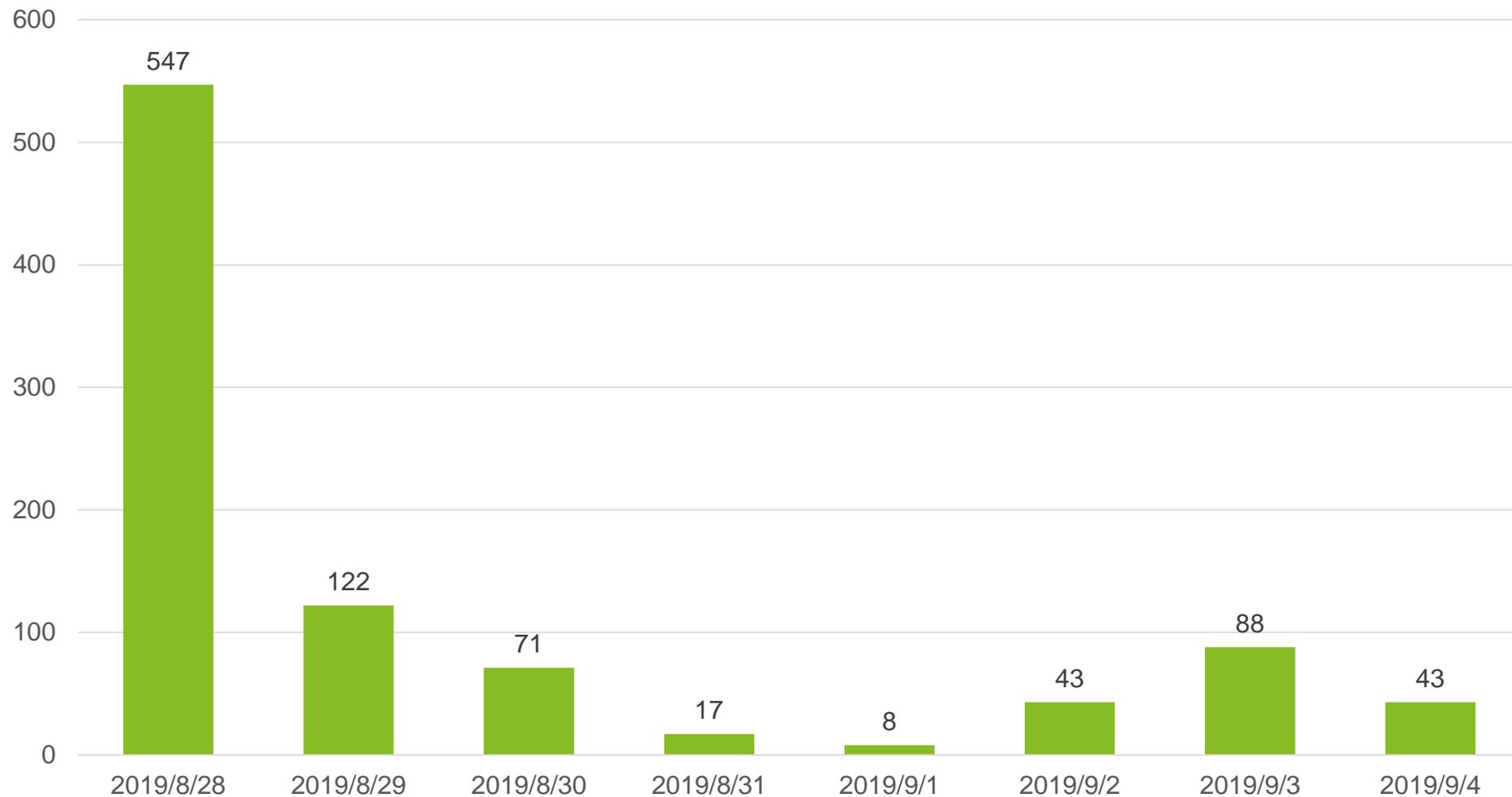
4.2 持続可能で強靱な社会の深化

4.2.1 我々は、持続可能で強靱な社会を築く上の、人、制度及び国の連結性並びに、SDGsの達成のための起業、科学技術イノベーション(STI)の重要な役割を認識する。



6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

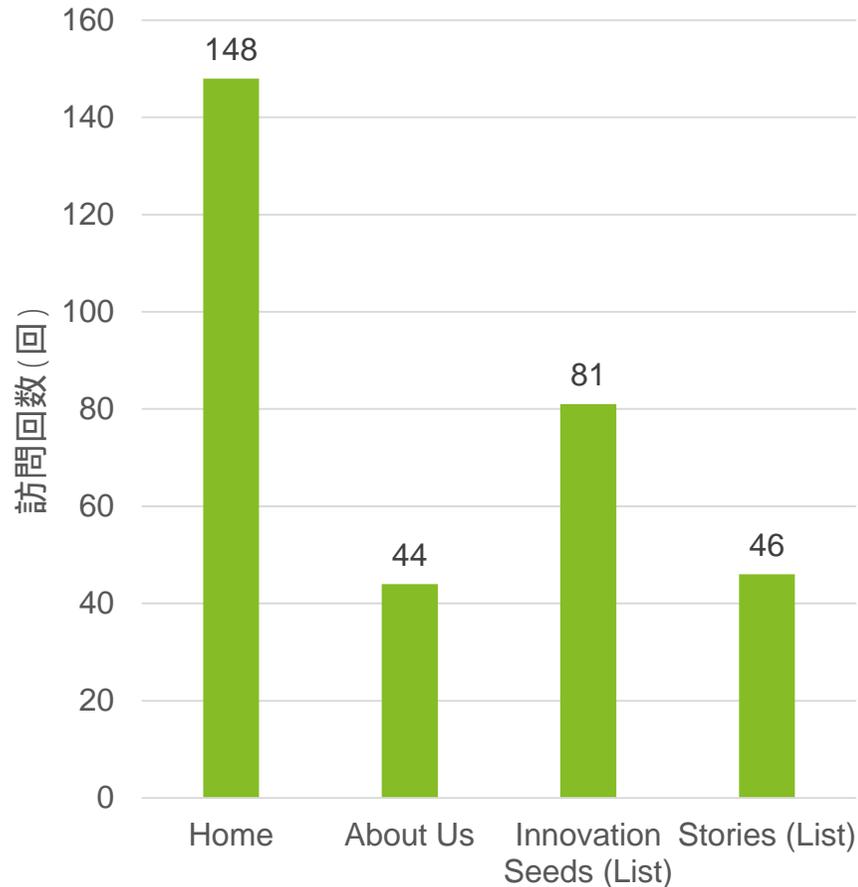
TICAD7期間中のページビュー数



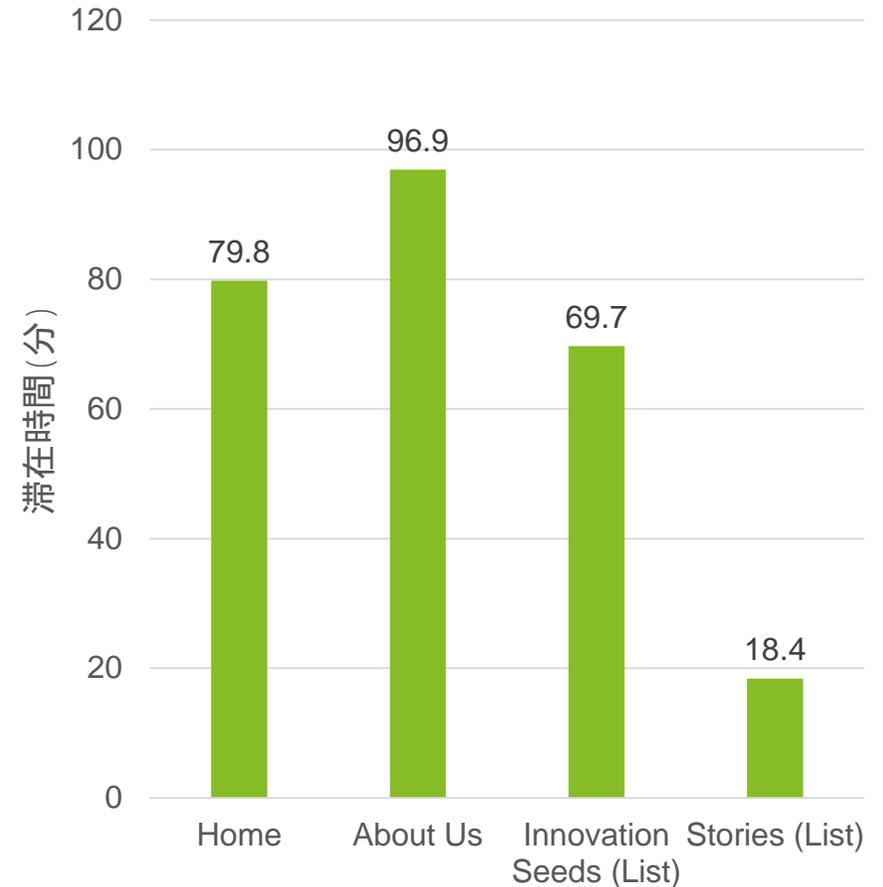
6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

TICAD期間中のアクセス状況: 主要ページ

ページ別訪問数



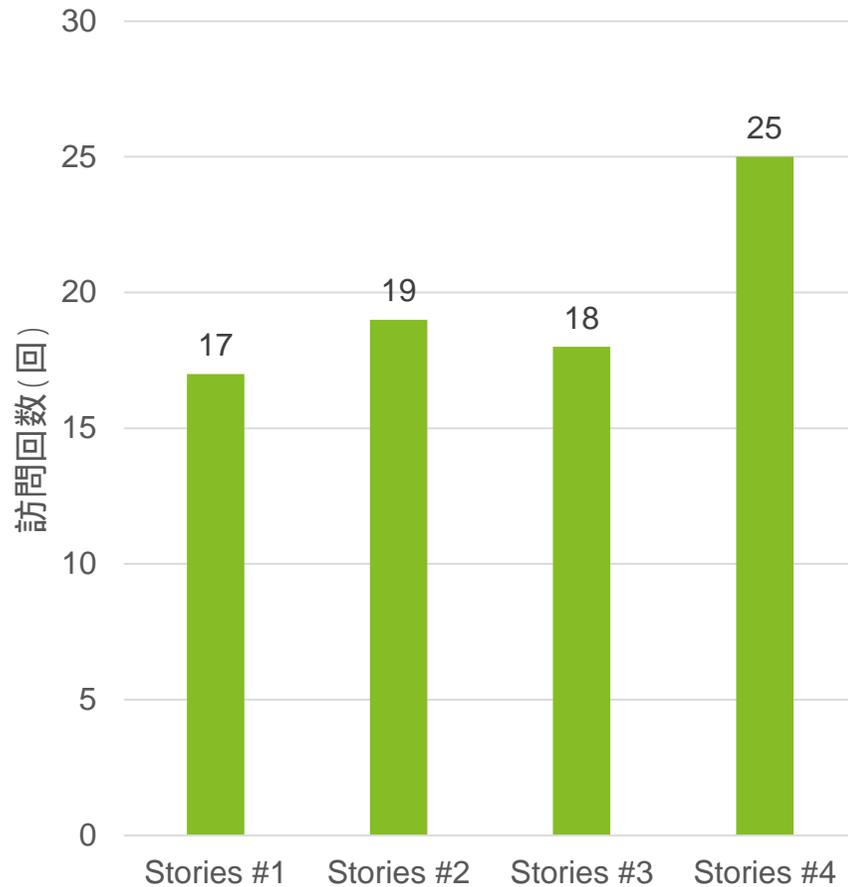
平均ページ滞在時間



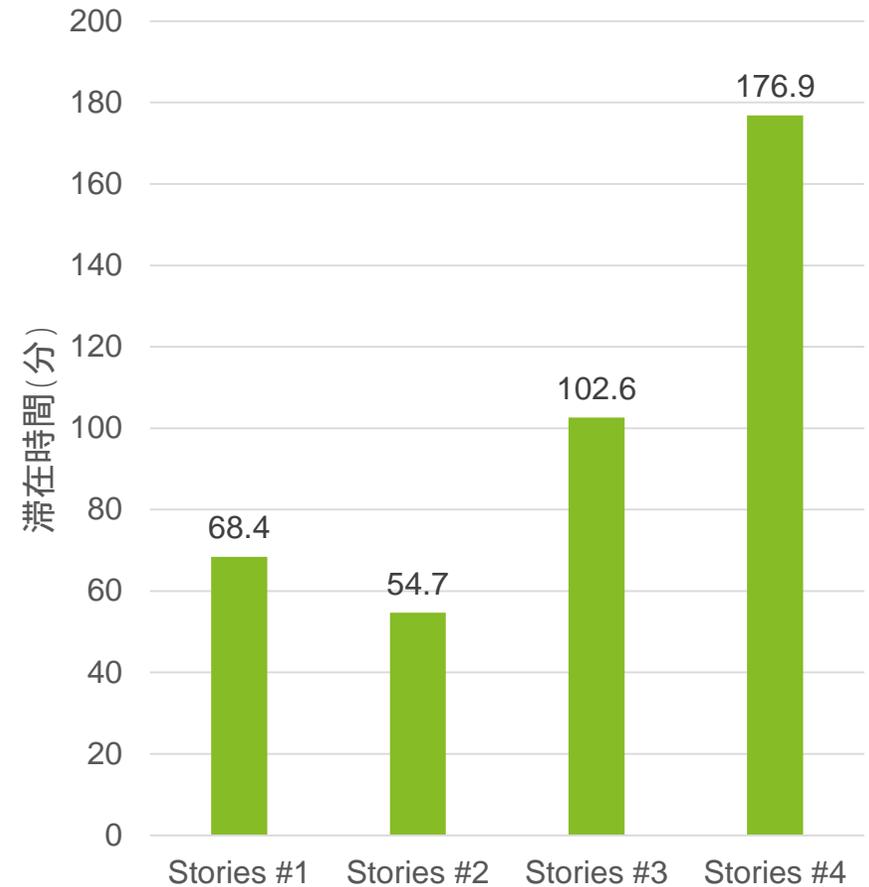
6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

TICAD期間中のアクセス状況: Stories

ページ別訪問数



平均ページ滞在時間



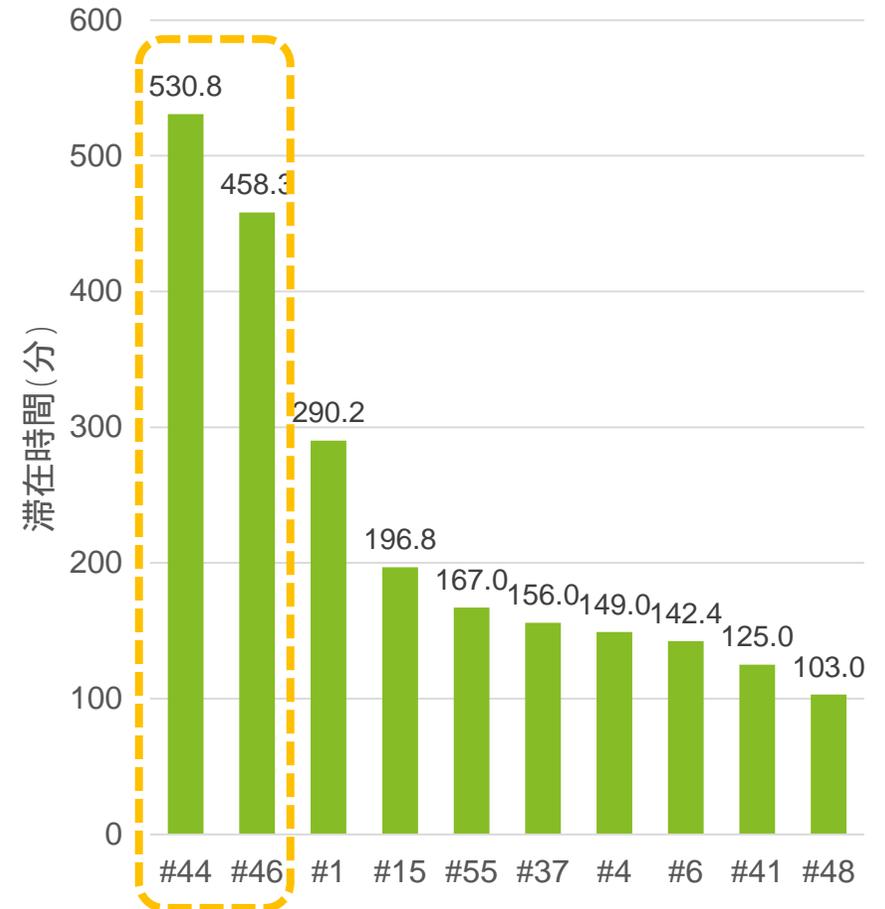
6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

TICAD期間中のアクセス状況: Innovation Seeds (上位)

ページ別訪問数



平均ページ滞在時間



6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

TICAD期間中のアクセス状況: Innovation Seeds

#	Company	Technology
001	AGC Inc.	Electrodialysis using ion exchange membranes
002	AGC Inc.	Agriculture: High durability film "F-CLEAN™" for greenhouse
003	BGCT JAPAN K. K. and Creative Co., Ltd.	Biomass Energy: Solid Recovered Fuel 'Green Coal' - RPPWF™
004	Biomaterial in Tokyo Co., Ltd. (bits)	Bioethanol energy and fertilizer (agriculture): Ethanol Production through Yeast Fermentation
005	CHUWA INDUSTRIAL CO., LTD. and M.K.D. Corporation	Environmentally-friendly and Smokeless Incinerator: CHUWASTAR
006	EiShin Co., Ltd.	Energy efficiency: Filtering Technology for Combustion Efficiency and Reducing Air Pollution
007	FUMIN Co., Ltd.	Building management: Coating for ultraviolet and infrared ray shielding
008	FUMIN Co., Ltd.	Agriculture: "MR-X" Agricultural Materials for Environmental Protection
009	GAINA Pro Co., Ltd, NISSIN-SANGYO CO., LTD.	Energy Efficiency: A Multi-functional Ceramic Coating Material
010	GUUN Co., Ltd.	Waste management: Technologies of producing fluff fuel derived from waste plastics
011	HINODE SANGYO Co., Ltd	Water treatment (waste water): Elbic Series Solutions for Wastewater Treatment
012	HINODE SANGYO Co., Ltd	Water treatment (industrial wastewater): Hinode Microbubble Generator (HMB)
013	JAG SEABELL CO., LTD.	Hydro power: Micro hydropower system (ultra-low head)
014	KAIHO SANGYO CO., LTD.	Auto Recycling: Eco-Friendly ELV Recycling System
015	KANEKA Corporation	KANEKA Biodegradable Polymer PHBH™
016	KINSEI SANGYO CO., Ltd.	Waste management: Waste incinerator of gasification system
017	KITA MACHINERY Co.,Ltd	Engineering Design and Installation Method of Sustainable Water Treatment System for Local People

#	Company	Technology
018	KITA MACHINERY Co.,Ltd	Engineering Design, Construction and Installation Method of Micro Hydropower System for Efficient and Stable Power Generation
019	KOMAIHALTEC Inc.	Wind energy: Mid-Size Wind Turbine "KWT300" (300kW)
020	KYOCERA Corporation	Solar energy: Photovoltaic Module / Solar Hybrid System
021	Mebiol Inc.	Agriculture: Sustainable Agriculture through Film Farming
022	Meiwa Co., Ltd.	Soil conditioner: A powerful biochar product for drought-vulnerable agriculture
023	Meiwa Co., Ltd.	Agriculture: Converting Organic Waste into Charcoal
024	Nakayama Iron Works, Ltd.	Hydro power: Pico and Micro Hydropower Systems
025	NGK INSULATORS, LTD	Battery: Sodium Sulfur Battery System
026	Nomura Kohsan Co., Ltd.	Waste management (mercury): Mercury Waste Recycling Technology
027	Panasonic Corporation	Solar energy: Rechargeable Solar LED Lantern
028	Sanso Electric Co., Ltd.	Water Treatment Facility: "Desaliation"
029	Shinko Tecnos Co.,Ltd.	Plastic recycling: Plastic changing to oil machine (BP-2000N/5000N)
030	Shinko Tecnos Co.,Ltd.	Waste management: Hydrothermal Treatment Technology
031	STELLA ENVIRONMENT CORPORATION	Waste management: Radiation Gas-burning Small-type Medical Waste Incinerator
032	Sumino Co.,LTD	Renewable energy: Micro Hydraulic Power Unit (Spiral Type Pico-Hydro Unit "PicoPica10", "PicoPica500")
033	Sumitomo Electric Industries, Ltd.	Solar energy: Concentrator Photovoltaic (CPV)
034	Sumitomo Electric Industries, Ltd.	Energy efficiency: Vanadium Flow Battery System

6. 国際会議等における取組み発信 (2) TICAD7

#	Company	Technology
035	Tamada Industries, Inc.	Pollution Prevention: SF double-wall tank
036	TBM Co., Ltd	Fats/Oil/Grease treatment from wastewater: FOG-green Power Generation System
037	TERAL INC.	Solar Pump System with Direct Current Drive Pump
038	TESNA Energy Co., Ltd.	Waste Management: Compact Waste Incinerator
039	Tottori Resource Recycling Inc.	Agriculture (irrigation): Porous System
040	Tromso Co., Ltd.	Biofuel: Rice Husk Briquette Machine
041	Yamaha Motor Co., Ltd.	Water treatment: YAMAHA Clean Water Supply System
042	Y's Global Vision Inc.	Water treatment (drinking water): Compact-Sized Desalination Device
043	Nagasaki University / Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC)	Establishment of an Early-warning System for Infectious Diseases in Southern Africa Incorporating Climate Predictions
044	The Center for African Area Studies, Kyoto University	Co-creation of Innovative Forest Resources Management Combining Ecological Methods and Indigenous Knowledge
045	JIP Techno Science Co., Ltd.	DRIMSTM: Smartphone makes roads safer and more comfortable!
046	BionicM	Robotic Prosthetic Knee
047	Axelspace Corporation	Space within reach
048	4D sensor Inc.	4D sensor for civil infrastructure damage monitoring
049	CHUWA INDUSTRIAL CO.,LTD.	Smokeless Incinerator for Medical & Industrial Waste
050	ZUIKO MEDICAL CORPORATION	Innovative wound treatment and dressing
051	Nissan Steel Industry Co., Ltd.	Film decomposing ethylene gas

#	Company	Technology
052	SPEC COMPANY LIMITED	Soil hardening agent STEIN
053	DELTA Corporation	Smiling Future with Drones.
054	CourieMate	A leading last mile delivery company in Uganda
055	Lequio Power Technology Corp.	To wipe out healthcare blank zone on our planet
056	Medmain Inc.	PidPort ~The marketplace for pathological image diagnosis with AI~
057	UMITRON	PidPort ~The marketplace for pathological image diagnosis with AI~
058	MARS Company	Special Ice Maker from Salty Water for Fish Preservation: "sea snow"
058	MARS Company	Unique Refrigerating Machines with Supercooling Technology for High-Quality Food Preservation: Kuraban

Stories

#	Title	Needs	Seeds
1	Adding Valor to Fishery Products through the Introduction of the Advanced Refrigeration System	Morocco	MARS Company
2	Creating the future of African tropical rainforests with local people	Cameroon / Institute of Agricultural Research for Development / The University of Dschang	The Center for African Area Studies / Kyoto University
3	Fighting against Infectious Diseases with a Warning System Integrating Different Areas of Research	Southern Africa	Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC) / Nagasaki University
4	Smartphone makes roads safer and more comfortable!	Kenya	JIP Techno Science Co., Ltd.

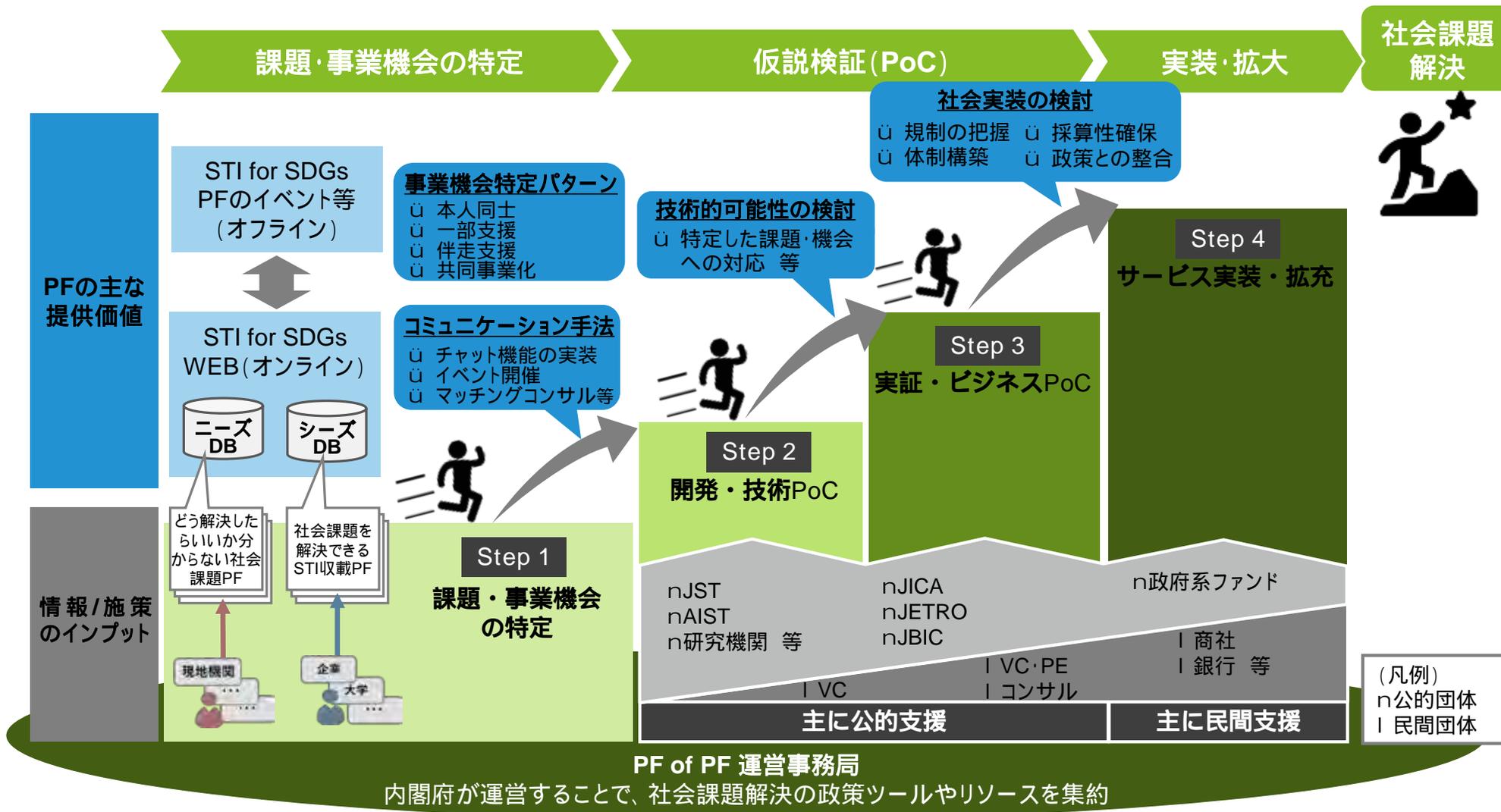
7.まとめ

(1) 考察：来年度以降の検討事項

7.まとめ

(1) 考察: 来年度以降の検討事項

STI for SDGsプラットフォームの構築検討にあたり、その他の既存PF情報を取りまとめるPF of PFと位置付け、サプライサイド(シーズを持った企業等)へのPoC段階や実装・拡大段階においても継続したPFによる支援が必要となる。



7.まとめ

(1) 考察: 来年度以降の検討事項

調査項目	仮説	調査方法	結論と考察
PF	<ul style="list-style-type: none"> 現状あるプラットフォームフォーム(PF)において、現地課題(ニーズ)と日本技術(シーズ)を結び付けているPFはあるのか。そのようなPFが少ない場合の要因は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存PFのデスクトップ調査 運営機関へのヒアリング 有識者へのヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ情報の詳細な整理や社会課題の要因分析を行っているPFは少ない。 ニーズ・シーズの当事者の立場からすると、「事業化支援段階」のサポートが充実することを望んでいる。
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 現地ニーズの収集方法を効率的に行うには、既存で蓄積されている資料や機関と連携することが必要になるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存ニーズのデスクトップ調査 関連機関へのヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> シーズ情報に比べてニーズ情報の掲載は少なく、ビジネス的観点での分析もあまり行われていない。 SDGs達成状況・ギャップの分析、課題の収集・分析が、十分ではない。
シーズ	<ul style="list-style-type: none"> 現地シーズの収集方法を効率的に行うには、既存で蓄積されている資料や機関と連携することが必要になるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存シーズのデスクトップ調査 関連機関へのヒアリング 有識者へのヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> シーズ情報は様々な機関で豊富にあるが英語で発信されている事例・技術・製品・企業は限定的。 イノベーションの視点を取り入れることが必要。
既存施策	<ul style="list-style-type: none"> 今後のPoC段階や実装・拡大段階において、既存施策をツールやリソースとして集約することで今後日本企業が活用できるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存施策のデスクトップ調査 	<ul style="list-style-type: none"> 施策情報は様々な機関で豊富にある。 企業が施策を把握していない場合や、自社の段階に合わせた活用方法が分からない場合がある。
上記の結果を基に、下記を調査			
オフライン	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム基本設計について、オフラインの機能はニーズの深堀機能であり、「課題解決志向のプロセス」の試行が必要なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> シーズありきではなく、「課題解決志向のプロセス」の試行として、課題別分科会を実施 PFの体制構築に向けたステークホルダー会合やラウンドテーブルを実施 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs達成状況・ギャップの分析、課題の収集・分析を行った。 今後はPoCの実施や現地調査が必要になる。 事業創造に向けた支援策の充実が必要。
オンライン	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム基本設計について、オンラインの機能は情報の統合なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> WEBの立上げ 他機関との連携検討 	<ul style="list-style-type: none"> UNIDOのSTePPやJSTのSATEPの優良事例・シーズをWEBに掲載。 今後より多くの機関との情報連携が必要。

構築に向けた 次の展開

- 事業創造に向けた、事業化支援(PoC:ソリューション開発)の実施検討
- プラットフォーム of プラットフォームに向けた情報集約・連携機関の充実
- オンライン/オフラインのサービス内容の精緻化検討